

久留米大学附設高等学校同窓会 会報



久留米大学附設高等学校同窓会事務局
〒839-0862 久留米市野中町20-2
TEL 0942-44-2222
FAX 0942-44-8257
◎卒業生数 12,683名

同窓会ホームページ <http://fusetu.sakura.ne.jp/> 順次更新していますので是非ご覧ください。



附設のシンボル『思考廻廊』



5回生のパネル／高良山下の学園は我等が心の故郷

目次

■ 訃報	川嶋会長 急逝	02
■ 挨拶	同窓会会長 高橋友作	04
■ 挨拶	学校法人久留米大学理事長／久留米大学学長 永田見生	05
■ 挨拶	附設高等学校校長 町田 健	06
■ 挨拶	後援会長 木下 明・校歌	07
■ 支部だより	全国10支部の活動	08
■ 海外だより	江上大地・堀岡大祐・遠山智昭	23
■ トピックス	15回生同期会・24回生還暦同窓会 中野三敏氏文化勲章受章・高校生ビジネスプラングランプリ	26
■ 高良随想	野田隆昭・原 享・青沼隆之	32
■ 会務報告	定期総会報告	35
■ 卒業生への支援	就職セミナー	44
	新人歓迎会	45
■ 在校生への支援	進路講座	46
■ 大学だより	福岡大学・LSE・大阪大学大学院・横浜国立大学・ 大阪大学・京都大学・東京大学・慶應義塾大学	51
■ 母校のいま	進学状況報告	59
	生徒会長 松本卓也	60
	文化委員長 松崎広太	61
■ 寄付・広告	63
■ 編集後記	同窓会室の紹介	148



故 川嶋文信 第6代同窓会会長

川嶋会長 急逝

同窓会会長・川嶋文信氏が6月16日、奥様とイタリア旅行中に急逝されました。早朝、身支度中に倒れられたとのことでした。

定期総会を目前にしての急逝。5月27日に母校で開催された理事・評議員会では元気なお姿を拝見していただけに、俄かには信じ難い突然の訃報でした。

葬儀は6月30日に千葉市内の葬儀場でしめやかに執り行われました。できるだけ静かに見送りたいというご遺族のお気持ちに沿って、同窓会としての弔問も副会長以下の同窓会役員に限らせていただきました。また、マスコミ発表等は葬儀後に行うとのこと、同窓会HPへの掲載もその時期に合わせることとなり、同窓生各位へのご連絡も遅れるところとなりました。

ご遺族はもとより、私たち同窓生も、余りにも早い故川嶋会長の死を直ぐには受け止めきれませんが、その悲しみを乗り越え、前を向いて進んでいかなければなりません。

3年に亘り重責を担われた故川嶋会長に感謝申し上げるとともに、安らかにお眠りになられますよう、心よりお祈り申し上げます。

7月29日開催された定期総会において新会長に高橋友作(19回生)が選出されましたので、同じく選出された5名の副会長、砂場泰浩(21回生)、栗木康幸(21回生)、岸哲司(22回生)、中村和徳(27回生)、吉本幸治(28回生)ともども、一致団結して同窓会活動に当たっていきます。

同窓会活動に対する同窓会会員各位の益々のご協力を宜しくお願い申し上げます。

久留米大学附設高等学校同窓会会長 高橋友作

追悼文

この度は、川嶋会長の突然の訃報に、大変驚きました。平成27年に第6代同窓会長に就任され、丸3年を経て、これから益々同窓会の発展に拍車がかかる所だっただけに、残念で堪りません。

川嶋会長は、東京支部からの選出でしたが、それまでは全て現在の福岡支部からの選出でした。東京支部の会員数が福岡支部に匹敵するようになり、特に若い人たちの在籍が多いこともあり、東京支部を一層充実させるための配慮でした。事実、この3年間東京支部は小田支部長と協力し合って、ますます充実が図られてきました。もちろん同窓会全体の活動の充実とさらに各地の同窓会支部の活性化や新支部の創設にも努力されました。

そもそも、川嶋会長と同窓会との縁は、平成25年「附設中高校新校舎竣工記念」行事の一つとして、記念講演会を開催しその講演者になって頂いたことでした。川嶋会長は、当時三井物産の代表取締役副社長をされておりました。演題は「グローバリゼーション時代を語る」ということで、三井物産時代の豪州での経験や、有名なロシアサハリン油田開発の最高責任者としての活躍の話など、附設の生徒たちに世界に羽ばたく夢と希望を与える話をして頂きました。その頃小生は、会長の職務を2期4年を過ぎ5年目に入っていましたので、次期会長を上記の東京支部からの選出案にそって考えておりました。折しも、小田(当時)副会長から同期の川嶋さんが来年は三井物産から退任の予定だと聞き、二人で三井物産へおもむき、会長職就任の件を相談したことが始まりでした。何度か相談する中、会長職を引受けて頂くこととなり、翌年の理事会、総会に諮って第5代同窓会長に就任して頂きました。

それから3年、明るく前向きな人柄で全体をとりまとめ、正に今からという時でしたので、同窓会執行部の皆さんには、特に残念至極と思います。しかしながら久留米附設高校同窓会は、互いの信頼と協力関係には極めて強いものがありますので、現同窓会執行部の皆さんがさらに発展に向かって頑張ってくれると信じていますし、それが川嶋会長のご遺志を継ぐことになると思います。

最後になりましたが、川嶋会長が安らかに眠られることを衷心よりお祈りいたします。

顧問 第5代同窓会会長 長谷川 房生



同窓会会長挨拶

故川嶋会長の想いを胸に 互助と親睦、母校発展への貢献を！

同窓会会長 高橋友作 (19回生)

会報の発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

本年6月、ご高承のとおり川嶋文信会長がイタリア旅行中に急逝されました。正に青天の霹靂であり共に同窓会活動を行なってきた者として、また同期の友人として悲しみに堪えません。

故川嶋会長は高校時代から明るく誰からも愛される好漢でありました。社会人になってからは、お互いに仕事も忙しく顔を合わせる機会もなかったのですが2010年1月に関東在住の同期数名で集まった時に再会いたしました。それからは年4回の例会などに日本を代表する企業の一つである三井物産のトップマネジメントとして多忙を極めていたにも拘らず殆ど参加され旧交を温めておりました。

思えば、3年前に川嶋さんが関東在住者として初めて会長に就任される際に、「友ちゃん、手伝ってよ」と声を掛けられたのが小生の同窓会活動の始まりであります。会長就任後は、故川嶋会長は同窓会関係につき猛勉強され内部では執行部を纏め、各支部総会などにも積極的に参加されると共に母校ならびに久留米大学、後援会とも交流を深め、同窓会の立ち位置を一生懸命模索されておられた姿を忘れることが出来ません。

特に同窓会の目的である「互助と親睦」「母校発展への貢献」については強い使命感をお持ちになってお

られました。回生を超えた交流などで故川嶋会長の温かいお人柄に触れられた会員の方も数知れずおられることでしょう。また、久留米大学創立90周年記念事業への募金協力に関しては、これが結局は附設高校の発展に繋がっていくものであるという信念をお持ちになり、あらゆる場所、会合で会員に対し協力を訴えておられました。故川嶋会長が最後となるフライトに搭乗する直前、小生あてに送られてきたメールも直近の募金状況に関するものであります。

悲しみと思い出は尽きません。改めて衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて、小生は故川嶋会長の後を受け本年7月の定期総会で会長に就任いたしました。もとより資質や経験など、全てにおいて川嶋前会長には及びもつかぬ凡才であります。ただ、川嶋前会長の傍で3年間、同窓会活動を行なってきた者として、その遺志を引き継ぎ、自分なりに何とか任期を全うしたいと考えております。

「会員間の互助と親睦」、「母校発展への貢献」。この精神を忘れることなく同窓会役員一同、一丸となって取り組んで行く所存であります。

会員各位ならびに学校関係者各位、後援会関係者各位におかれましては、何卒、引き続き温かいご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



理事長・学長 御挨拶

「人生二度なし」

学校法人久留米大学 理事長
久留米大学 学長 永田 見生

はじめに、本校卒業後一橋大学経済学部に進学し、三井物産の代表取締役副社長執行役員を勤め、定年後の平成27年7月に附設高校同窓会長に就任された川嶋文信会長が、清新澆刺として同窓会活動に取り組まれていた矢先の平成30年6月16日に旅先のイタリアで突然ご逝去されました。まさに晴天の霹靂であり、学校法人久留米大学を代表致しまして川嶋文信会長のご冥福を心からお祈り致します。

今回の寄稿文は2018年3月1日の卒業式で告辞した内容です。ご父兄の皆様、本日はめでたく卒業式を迎えられ、心からお祝い申し上げます。教職員の皆様は、3年間あるいは6年間、多感な時期の生徒達の生活指導と学科教育に対するご尽力に、学校法人久留米大学を代表して敬意を表し、御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、学園祭、合唱コンクール、あるいは体育祭等では、自分達で一生懸命に企画、運営し、大変だったこと、楽しかったこと等、多くの思い出があり、これらを通じて親友もできたことでしょう。卒業後も附設で出会った真友を大切にしてください。現在、世界は目まぐるしく変化し、先の見通しが不明瞭な状況です。日本は以前の高度成長期のような急成長は望めず、成長が緩やかな時代です。そして、現在の大学は、ご父兄が過ごされた時代とは大きく変わり、グローバル化が進展する中で、国が求める使命は、研究を通じたイノベーションの創出、地方創生の中核となり地方を活性化させ、また、日本を支える人材の育成、高度な教育研究活動の推進等による国際競争力の向上、グローバル人材の育成拠点となること、また、大学発ベンチャーの推進など多岐に渡る期待が以前に増して増加しており、多くの大学が、こうした社会の期待や学術研究の進展に機動的に対応すべく精力的な取り組みを重ねています。進学する諸君は、現代の変化を認識し、国の行く末を担っている世代であることを自覚し、強い決意を持って、自分自身が人間として成長することを目標にして大学での勉学に励んで下さい。そして、自分達が、世界のリーダーとして一目置かれるような新しい日本を創造するのだというビジョンを持って励んで下さい。

皆さんは、素晴らしい能力を持っている英才ですから、難関である附設中学あるいは高校に入学できまし

た。そして、優秀な教職陣からの教育や、自分自身の努力に加え、仲間とのふれ合いにより知識と人間力が磨かれ、本日、附設を巣立ちます。皆さんの前途は洋々としており、その能力が開花し大輪の花が咲く無限の可能性を持っています。現在内閣は、ソサエティ1.0を狩猟社会、2.0を農耕社会、3.0を工業社会、4.0を情報社会とすると、これに続く社会をサイバー空間（コンピュータやネットワークの中に広がるデータ領域を、多数の利用者が自由に情報を流し、情報を得ることが出来る仮想的な空間）とフィジカル空間（現実社会）に続くような新たな社会である「ソサエティ5.0」の到来を見据えた経済社会を大胆に構想する中で「一億総活躍」の旗を更に高く掲げ、日本を誰でもチャンスあふれる国へと変えていくために、一丸となって「人づくり革命」を断行し、「生産性革命」を実現することを最大の使命としています。ソサエティ5.0とは、「超スマート社会」すなわち、必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かに対応ができ、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き生きと快適に暮らすことのできる社会の実現に向けた一連の取り組みを指しています。そして、IoT、ロボット、人工知能（AI）の進歩発展により、20年後には半数以上が現在存在しない職業に就いているとの予測があります。卒業生の皆さん！「人生二度なし」です。時代の変化を先取りし、柔軟に素早く変わり、時代に順応して、新しい時代に活躍できる人物になる為に、不滅の精神を確立し、高い志を持って船出して下さい。これから、皆さんは、「大学で何をするのか」「世の中に出てからは何をするのか」との問いに即答できる意識を持ち、校歌にある「真善美」、すなわち、「人間の理想としての普遍妥当な価値」が何であるかをシッカリと見極めて確固たる自己を形成し、世の中ため、人のために尽くすことを任務とする社会人、すなわち利他の精神を身に付けて生きて行く土台を築いて下さい。

結びに、卒業生の皆さんが元気に大学生活を過ごし、日本を輝く国にするための人材として活躍されることを祈念致します。



校長御挨拶

附設で受けた輝かしい教育を元に 社会に価値ある貢献をする

久留米大学附設中学・高校長
(高校23回生・中学1回生)

町田 健

同窓会員の皆さまの日頃のご支援には、心より感謝申し上げます。昨年4月に校長として赴任して以来、定期総会・理事会を初め各地の支部会の総会に出席して参りましたが、同窓生の皆様の熱心にしてご厚情溢れる母校に対するご支援を目の当たりにすることができ、心より感謝申し上げます。附設の日常的運営は、在職中の教職員・保護者の方々によって担われてはいるのですが、この運営が、附設の理念を実質化し、望ましい方向へと発展する契機とも基礎ともなるのが、附設の輝かしい歴史を築いて来られた同窓会会員の皆さまであることは言うまでもありません。学校と同窓会のこのような望ましい関係が、附設の教育をさらなる高みへと導く原動力となっていることを強く感じておりますし、今後もそのような状況が継続することを望んで止みません。

昨年度の大学合格実績は、東大23名、京大13名、九大医学部20名、国公立大学全体で155名など、例年に劣らぬ輝かしい成果を上げており、附設の教育がさらなる発展を続けていることを確実に実証しております。学校行事に関しても、昨年度より久留米シティプラザに2日目の会場を移した文化祭も、生徒たちの高い独創性を如実に見ることができる優れた企画が展開され、附設生の才能と行動力に改めて感銘を覚えました。なお、愛称である「男く祭」については、本年度で男女共学が完成することもあって、昨年度に生徒会

主催で名称の変更も視野に置いたアンケートを実施した結果、従来のこの名称が、女子生徒も含めて高い支持を得たため、今後も継続して使用することにいたしております。

ギリシアの哲学者アリストテレスの『ニコマコス倫理学』(Ethica Nicomachea)の中に、次のような一節があります。

οὐχ ἰκανὸν δ' ἴσως νέους ὄντας τροφῆς καὶ ἐπιμελείας τυχεῖν ὀρθῆς, ἀλλ' ἐπειδὴ καὶ ἀνδρωθέντας δεῖ ἐπιτηδεύειν αὐτὰ καὶ ἐθίζεσθαι, καὶ περὶ ταῦτα δεοίμεθ' ἂν νόμων, καὶ ὅλως δὴ περὶ ταῦτα τὸν βίον.

若い頃に適切な食事と指導を受けることでは十分ではなく、さらに大人になってからも、身につけた教訓を訓練し習慣化することが必要である。そのためには、それらの教訓だけでなく、それに関する生活全体を律する規律が必要となる。

附設で受けた輝かしい教育の成果を確かなものとして、これを元に社会に対する有益にして価値ある貢献をするために、同窓生の方々からのご指導とご支援を賜ることが、この哲学者の言う規律の確立にとって極めて重要であると考えます。今後とものご配慮のほど、何卒よろしく申し上げます。



後援会長挨拶

母校の近況について

後援会長 木下 明 (37回生)

昨年度から後援会会長を務めさせていただいております木下明です。平成9年に弁護士登録後、平成12年から福岡市内で法律事務所を開設し、今日に至っております。

今年の3月に長男が無事に卒業しましたが、長女が現在高校1年生であり、引き続き後援会役員の職を続けています。今年3月に卒業した66回生が中学最後の男子校学年であり、今年度から中学1年生から高校3年生まで完全共学化となりました。

同窓生の皆様で、卒業後あまり母校を訪ねられてない方は、久しぶりに母校に行かれると驚かれるかもしれません。向学心に富んだエネルギーのある女子生徒が、半数まではいきませんが校内にあふれており、「男くさい」男子校のイメージは過去の遺物となりつつあります。高校演劇部は女子のみとなってしまう、男子生徒を募集しているそうです。女子生徒が生徒会長を務めるようになるのも、もう間もなくのことかも

しれません。

校舎も新しくなり、男女共学化し、母校は大きく変化しています。ただ、それでも母校に流れる空気、雰囲気あまり変わらないように思えるのは、同窓生としても保護者としても非常にうれしく感じています。男女問わず向上心のある生徒たちとそれに向き合う熱心な先生方が作り出す空気というのは非常に素晴らしいものです。

同窓生の皆様には、毎年進路講座にご協力いただき、様々な分野に進んだ先輩の立場から刺激あるお話をいただいています。今やらなければならない勉強、受験の先の世界にふれることは、生徒たちが将来の目標を定めるにあたって極めて良い影響を与えているものと思われまじし、実際に生徒たちの評判も上々のようです。是非、今後ともより一層のご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願い致します。

校歌

久留米大学 附設中学校 校歌
附設高等学校

大石亀次郎 作詞
藪 文人 作曲

一、高良山下の学園に

万朶の桜咲きそろい

若き血潮の高鳴るを

見ずや 希望の揺籃地

二、江月冴えて 悠久の

流れは遠し 千歳川

高き彼岸の光明を

見ずや 試練の理想郷

三、修羅道の世を救うべく

平和の偉業 任として

築く不朽の真善美

見ずや 我等の大使命

北は北海道支部から南は大分支部まで、全国10支部に加えて、2016年2月、中部支部が新たに設立され、11支部となりました。また、2015年末、東北6県でも仙台を中心に東北OB会が設立されました。地元福岡では、サロン・ド・附設イン福岡、同北九州、同久留米の他に、有明OB会、筑後OB会、朝倉OB会、筑豊OB会、久留米OB会が活動しています。

各地で活発な同窓会活動が繰り広げられています。この『支部だより』コーナーでは、各支部の活発な活動報告をお届けします。

●福岡支部●

5つのOB会に 県内同窓生のネットワークを支えていただいております！

福岡支部長 **実藤 光二郎** (26回生)

県内には、有明・筑後・久留米・朝倉・筑豊のOB会が活動されており、県内同窓生のネットワークを支えていただいております。OB会会長をはじめ幹事の

皆様のご尽力、本当にありがとうございます。各OB会の自主性と特色を尊重しつつ、福岡支部としてバックアップしてまいりたいと考えております。

●有明OB会●

2017年10月21日(土)開催 於：大牟田市「だいふく」 伝統ある「卓話」を町田新校長にお願いしました。

有明OB会会長 **高口 裕輔** (10回生)

毎年悩ましいのが卓話です。附設にふさわしいテーマを幹事連で知恵を出し合い検討するもなかなか難しく苦勞しています。幸い、今回は幹事が23回生（大坪鉄治氏）で町田健新校長と同期という巡り合わせに恵まれたことから、町田校長に卓話をお願いすることが

できました。

限られた短い時間に端切れの良い卓話をいただきました。改めてお礼申し上げます。

伝統ある有明OB会の「卓話」を悩みながらも継続していく所存です。



● 筑後OB会 ●

2017年11月11日(土)開催 於：筑後市「日若屋」
30名弱で和気藹々と。

筑後OB会幹事・福岡支部副支部長 **坂井良治** (22回生)

「卓話」も無し。役職者の「ご挨拶」も無し。和気藹々と酒を飲み懇親をするのが筑後OB会のスタイルです。何故か女性の参加があるのも、筑後OB会の特徴？です。



● 久留米OB会 ●

2018年1月27日(土)開催 於：久留米市「マリターレ創世」
毎年1月の最終土曜日に久留米で集おう。

久留米OB会幹事・福岡支部副支部長 **執行謙二** (27回生)

第3回目となる久留米OB会は、約80名のご参加をいただき、「高校生ビジネスグランプリ」で附設がファイナリストに（上河達郎氏31回生）「KINONIOプロジェクト（高倉慶応氏34回生）」「附設の教育と私（町田健校長）」に加え、懐かしい3分間スピーチも若い年次回生から行われる等、盛りだくさんの内容で、盛況裡に終えることができました。

次の1月の最終土曜日は2019年1月26日です。皆様のご参加宜しく申し上げます。



●朝倉OB会●

2018年2月10日(土) 於:朝倉市「ニュー松屋」
車座で楽しく懇談

朝倉OB会会長 **一瀬 徹夫** (13回生)

町田新校長、楠田大蔵新大宰府市長(42回生)の参加もいただき総勢23名での開催となりました。OB会総会の議事を終え、乾杯。各人の近況報告の後、恒例

の車座の輪があちこちにでき、酒を酌み交わし、懇親を深めました。



●筑豊OB会●

2018年3月7日(水)開催 於:飯塚市のがみプレジデントホテル
**とにかく明るい筑豊OB会、
 新会長に有松直氏(20回生)が就任**

筑豊OB会幹事・福岡支部副支部長 **川口 武壽** (25回生)

今回で4回目を迎える筑豊OB会は、平日にもかかわらず30名に参加いただきました。発足当初より会長を務められた野田晏宏氏(14回生)が今回を以ってご退任となり、新会長に有松直氏(20回生)が就任されました。懇親会は新会員の54回生篠田氏を初め各会員が

「男く祭」附設時代のエピソードを披露。会場は爆笑の連続となりました。最後は、校歌斉唱の後、25回生江口 冬樹氏の万歳三唱で締めくくり、「とにかく明るい筑豊OB会」での再会を誓い合いました。



平成30年度
久留米大学附設高等学校総会を終えて

平成30年度久留米大学附設高等学校同窓会総会幹事長 田中健一郎 (29回生)

諸先輩方の厳しいご指導と、後輩たちの暖かいご支援により、どうにか役目を果たすことが出来ました。出逢いより40年、55歳を迎えたこの夏に同窓会総会の幹事を任される意味を痛感した1年間でした。

『和而不同 流れ流され 人生色々』が、テーマの今回の総会タイトルでした。我々29回生の皆、母校卒業後、各人の選択した路をガムシャラに突き進んできました。さまざまな経験を積み、疎遠になっていた心根を同じくする仲間と過ごした1年間で、如何に選ばれた素晴らしい仲間に恵まれていたのかを実感させられました。

これからの同窓会の将来を見据え、易きに流れれば容易な対応も、後輩たちの為には屈する事無く、過去を振り返り、データを集計し、幹事の皆が一つ一つ話し合い確認し行動してまいりました。過去最高額の広告協賛寄付金を集める事が出来たのは、これまで長きに渡り応援いただいた諸先輩のみならず、今を活躍する同世代の回生達と後輩達のお陰です。これからも変わらず支えていただきたい。

では、会員数が1万人を超え、保有資産も2億円に達そうかとする、同窓会組織に求められているのは何か？ これまで同窓会活動を支えて頂いた先輩方とそのやり方に頼り切るのではなく、新しい世代がより同窓会活動に参加しやすい仕組みと環境づくりが必要だと実感させられました。混沌とした同窓会懇親会の場で恩師から『まるで朝のホームルームの様ですね!』と言われ、言葉遊びの中に揶揄された意を解しようと、ヒタムキに耳を澄まし言葉ひとつひとつに拝聴し

ていた世代が中心となった改革が必要だと実感させられました。後輩たちの活躍ぶりを吹聴するのではなく、今活躍せんとしている世代同士が助け合える交流の場に変えていく時期ではないでしょうか。

学ぶだけでなく自ら考える様々な場を提供くださった附設の『自由』の意味するところは、Self Relianceであることを、板垣政参先生が厳父のごとく、原巳冬先生が慈母のごとく、生徒と接しながら教えて頂いていたことを、恩師 西原和美先生の公の場での最後の言葉として ご指摘頂きました。変化する社会への情報発信を、この同窓生の集いの場より自由に意見や情報を交換して、頂けるようにしていきたい。これから芽を息吹かんとする若者たちが、一人でも多く集えるような同窓会組織へと発展させていきたいものです。

東から西へと来る異例の台風も襲来する中に、ご参集いただきました同窓生の皆様に衷心より感謝するとともに、皆様のご発展を祈念いたします。公人たる同窓会会長の任期途中に急逝された川嶋前会長の死去に深い哀悼の意をささげ、この度の貴重な経験の御礼として、幹事一同を代表して寄稿させていただきました。

『雲の峰 筑紫次郎の 喜怒哀楽』



●北海道支部●

第30回 久留米大学附設北海道支部総会
また来年の再会を約して！

北海道支部長 檀 浦 龍二郎 (20回生)



6月23日、30回目の北海道支部同窓会を行いました。毎年6月の第4土曜日を目安に、狸小路のライオン札幌ビール園でジンギスカンというのが定番ですが、5年ごとの節目の年には場所を移して行っています。今年はススキノの炉端大助で行いました。2回生から66回生まで19名の参加がありました。加えて同窓会本部より高橋友作副会長、小田恵介東京支部長にもおいでいただき、さらに華やかな会となりました。高橋副会長から久留米大学の90周年事業やWEB名簿のご説明があり、小田支部長からは東京支部の活動状況のお話がありました。そののち、当支部最年長の2回生末永先生に乾杯の音頭を取っていただき、歓談に移りました。話の中で、偶然同じ中学でクラブが一緒だったり、実家同士がご近所だったり、思いがけないつながりの発見があったようです。高橋副会長いわく、旧御井校舎を知っている19回生までの第一世代(言わば黎明期)、その後の第二世代、男女共学後の第

三世代と、附設も進化を続けていて、校風も変化しているとの事でした。また、今年北海道に進学された5名中4名の出席があり、その方たちも含め学生さんに抱負を述べてもらいましたが、皆さんしっかりした目標を持っており、年寄組も大いに元気をもらいました。ただ3回生の松永先生はまだバイクに愛着をもたれており、お元気です。最後には校歌を斉唱し、1次会はお開きとなりました。その後場所を札幌プリンスホテル最上階のラウンジに移し、2次会となりました。ここは札幌の夜景が一望でき、開放的な雰囲気の中で、大分アルコールも入った事もあって声もしだいに大きくなり、さらに話が盛り上がりました。最後にまた来年の再会を約してお開きとなりました。北海道支部は小所帯ですが、今後も同窓会本部、東京支部をはじめ各支部とのコミュニケーションを深めて、お互い協力してやっていきたいと思っています。これからもご支援宜しくお願いします。

第3回 東北OB連絡会

同窓生の皆さん、東北在住の仲間にお声を掛けを！

第3回東北OB連絡会幹事 里村智彦 (19回生)

5月13日、3回目となる東北OB連絡会を仙台駅前の「はや瀬」で行いました。当日は、東京から駆けつけてくれた川嶋会長・小田東京支部長・中村尚昭氏を含め19回生、21回生、22回生、46回生、60回生、61回生合計9名(社会人6名、学生3名)の参加がありました。また、都合により参加できなかった方々からもメッセージをいただき、少しずつですが東北OB連絡会の輪が着実に広がっているように感じられました。

当日は川嶋会長の挨拶、小田支部長の乾杯で会が始まり、自己紹介に続いて「何故東北の地まで来たのか(東北の方々には失礼ですが?)」など話が盛り上がり、予定時間を大幅に超過してしまいました。その中で、46回生の奥田氏は今年の会報に掲載された東北OB会の記事でこの会のことを知り、今回参加して下さいました。会報が、同窓生の縦の繋がりを作る大きな役割を果たしていると再確認致しました。これからも、会報を通じて同窓生の繋がり輪が広がっていかばと思います。

また、19回生の中川氏は鳥根県職員(衛生行政医)

を定年退職後、被災地福島復興支援のために福島市保健所長として赴任されました。まさに、校歌の「修羅道の世を救うべく」を実践されている方で、同じ19回生として頭が下がる思いで再会を喜びました。

東北OB会のこれからの課題としては、学生達が卒業後もこの地に残るという保証は無いということです。この会を維持していくためには、多くの附設生に東北の大学に進学してもらうことが重要な課題となります。そのためには、我々東北在住者がこの地の良さを在校生にアピールすることが重要となります。機会があれば、後輩達に東北の良さを伝えたいものです。また、眠っている同窓生の目を覚ませることも重要となります。この会報や同期という横糸、先輩後輩という縦糸でしっかりと織られた反物のような同窓会(東北OB会)の組織作りが必要だと感じております。

最後になりますが、来年度も同じ時期に東北OB連絡会を開催する予定です。この会報を読まれた同窓生の皆さん、東北在住の仲間にお声を掛けて下さるようお願い致します。



第3回 中部支部総会
「附設校歌の漢詩バージョン」のサプライズも！

中部支部長 石井三記 (21回生)



中部支部の第3回総会が2017年11月25日土曜日に名古屋駅近くの居酒屋で開催されました。

今回、人数は前回の22名を下回って18名ではありませんでしたが、中部支部内では愛知県、岐阜県、三重県からの参加者がありました。参加世代も上は9回生から下は45回生まで地方支部ならではの多様性があり、一例ですが、筆者の同級で附設の数学教師になった中島健二先生に教わった同窓会参加者がいるなど、話に花が咲きました。また今回は町田健校長が久留米から、東

京からは川嶋文信同窓会長、東京支部長の小田恵介さん、同じく東京支部の中村尚昭さんが駆けつけてくださり、附設の現況や全国で活躍されている同窓生のことも語っていただきました。

午後6時からの中部支部総会は午後9時近くまで盛り上がりましたが、閉会前の校歌斉唱に際しては、大石亀次郎先生の手になる「附設校歌の漢詩バージョン」を荒木邦彦大先輩(9回生)によって紹介吟詠していただくサプライズもありました。

● 関西支部 ●

平成30年7月2日
活動報告

久留米大学附設高等学校同窓会関西支部 支部長 甲斐田 郁夫 (21回生)

春の活動は、平成30年6月30日(土)に、今年で4回目を迎える事となる「関西地区大学生 新入生歓迎会」から始まりました。場所は、昨年同様、ムッシュいとう(京都三条通り河原町)です。

関西7大学の学生46名と社会人15名、計61名での盛会でした。当日、近畿地区は天候が荒れ、遅れてこられる方も多く、毎回ご出席の榎原孝(社会人29回生)さんは、大津で停車したJ車両に閉じ込められ残念ながら、ご出席が叶いませんでした。

扱当日は、奇しくも6月16日に逝去された川嶋会長の告別式当日でもございました。開始に先立ち、甲斐田より川嶋会長が関西支部のためご尽力いただいたことを申し述べ、黙とうをもってそのご遺徳を偲びました。

会の進行等は従来通り学生に一任致しました。

今回は学生参加者中、19名が大学新入生でした。ある新入生に声をかけたところ、「こんなに美味しいものを、ただで食べさせもらえるなんて幸せです。」とのこと。やっていて良かったなという実感がわきました。

当初は社会人参加者が少なく、新入生からも千円程度の負担をいただかないと、会が成り立たない状況でしたが、前出の榎原さん等のご尽力で社会人参加者15名迄に至り何とか新入生歓迎会の体裁を保つ事ができ

ました。蛇足ながら、榎原さんをご参加であれば社会人参加者は16名となる所でした。

この回に先立つ、昨年暮れ平成29年12月1日(金)には、阪急うめだ本店 TRATTORIA AL POMPIEREにて、関西支部総会を開催しております。

当日は亡き川嶋会長、高橋副会長と町田学校長にもお出でいただき、同窓生一同楽しいひと時を過ごさせていただきました。関西地区に学校長をお迎えしたのはおそらくは初めてかと思えます。

手元に、昨年京都の同じ場所で川嶋会長、高橋副会長と町田学校長をお迎えし写した写真がございます。川嶋会長の笑顔が印象的です。今春の写真を添えて、活動報告と致します。



● 中国四国支部 ●

中四国支部2017年度活動報告
3年に1度の支部総会を広島で開催！

支部長 今田 忠 則 (19回生)

活動報告の前に同期である川嶋会長の突然の訃報に未だに受け入れがたいですが、ご冥福をお祈りいたします。中四国支部役員全員も同様の気持ちを寄せてくれております。

■ 支部活動（昨年度活動結果、今後の活動内容 他）

1) 去る2017年10月28日、当支部としては3年に1度の支部総会を広島で開催しました。その折は久留米から町田校長先生、東京から同窓会本部の川嶋会長、高橋副会長及び東京支部から小田支部長にご参加頂き誠に有難うございました。校長先生は翌日久留米での学校行事に出席されるため日帰りの予定でしたが学校側の粋な計らいで代行者を立ててくださいまして1泊が可能となり2次会では若手の会、中

高年の会と流川をはしごして頂き出席した支部会員のほぼ全員と懇談して頂き大変楽しい総会が出来ましたこと改めて感謝しているところであります。ちなみに東京からのお三方は私と同期で当然中高年の会に同席してもらいました。

2) 昨年、中四国支部の森先生(2回生)の呼びかけで、博多での同窓会総会の懇親会後に過去広島在住者で現在福岡在住の同窓生との懇親会を開催しました。中四国支部発足時のメンバーとの活動に思いを馳せ非常に懐かしく思いました。今年も計画されますので可能な方は是非参加してください。

■ 同窓会員の動向

今年2月にいつも参加して頂いた6回生の堀之内氏が静岡に転居されましたのでご報告します。



年1回、佐賀支部会と芙蓉医会を開催！

佐賀支部長 三根 茂 (17回生)

■平成29年度佐賀支部会

8月26日(土) 18:00~20:30

佐賀市：佐賀ワシントンホテルプラザ銀座八丁

例会では、佐賀市諸富町で家具ギャラリー福山商店を経営されている福山満博(16回生)氏に「大川の木工の歴史について」と題し講演して頂きました。筑後川上流日田地方には多くの木材があり、その河口の大川市は木材の集積地また有明海の交通の要衝として発展してきた。大川家具発祥の地といわれる「榎津」は江戸時代中期より木造船や農具の製造が行われてきた。その後、明治より現代にいたるまでの木工家具の生産と変遷について解説して頂きました。

懇親会では、来賓の同窓会福岡支部長実藤光二郎(26回生)氏より附設高校および同窓会の近況を伺いました。中島正利(10回生)・川添嘉徳(35回生)両氏が今回初参加でその他の出席者は13~44回生19名でした。今年度より佐賀大学農学部特任准教授に赴任された川添嘉徳氏が初代佐賀支部長故江頭泰幸(7回生)先生の娘婿で私のすぐ近所に住んでいると聞き不思議な縁を感じました。若い世代の支部会員の参加をお待ちしています。

引き続き支部事務局は前山医院前山英彦(33回生)院長が担当します。

■第29回芙蓉医会（佐賀県在住医師同窓生の集まり）

平成30年2月9日(金) 19:00~21:30

佐賀市：おおしま

佐賀大学医学部整形外科園畑素樹(32回生)准教授に「股関節の痛みと治療」の講演をお願いしていましたが、より会員の興味を引くようにといわゆる「先天性股関節脱臼(先股脱)」の発生要因について最近の考え方を解説して頂きました。「先股脱」は古くは母体内で発生すると考えられていましたが、現在では出生後の肢位(脚の位置)やオムツの巻き方によって生じるため「発育性股関節形成不全」と呼称するようになってきました。赤ちゃんの股関節脱臼は冬寒い時期、寒い北国、先住インディアン「ナバホ族」の赤ちゃんに発生が多いのは股関節にまだ緩みのある時期にオムツを強く巻くことで発生することを示されました。40数年前に習ったこととは変わってきていました。

引き続き芙蓉会事務局は佐賀大学医学部内科学皮膚科永瀬浩太郎(44回生)講師が担当し、今回も彼の献身的な参加依頼で43名(医師31、学生12名)の過去最高の参加者があり、大盛況の会となりました。次回は平成30年2月2日(金)同じ会場で19時開始を予定しています。ただし、金曜日は仕事の都合上出席が難しいとの意見もあり今後検討したいと思っています。



29年度佐賀支部会



第29回芙蓉医会

●長崎支部●

支部総会とゴルフコンペで参加者募集中！

長崎支部長 碓 秀 樹 (24回生)
幹事 福 田 実 (32回生)

久留米大学附設高等学校同窓会長崎支部が平成29年11月11日(土)に長崎市ホテルニュー長崎の中国料理桃林で開催され、35名が参加しました(平成26年度は46名)。初めに「プリオン病の新知見」佐藤克也(34回生)、次に「情報メディアの未来」藤田 武(32回生)の講演会を行い好評でした。



続いて支部長が議長となり総会、その後懇親会を行い長崎支部活性化について話し合いました。学生の出席を増やすため平成26年度から学生参加費を無料にしており女性4名を含む17名の参加がありました(平成26年度は15名)。初めての参加者も楽しかったので次回以降も参加すると言っています。15回生今村由起夫の支部長退任を慰労しました。新しい長崎支部は、支部長 碓 秀樹(24回生)、副支部長 安武 亨(24回生)、理事 本村克明(33回生)、評議員 山縣雅義(32回生)、松藤祐二郎(34回生)、監事 田中邦彦(32回生)、尾長谷 靖(33回生)、幹事 池田裕明(31回生)、福田 実(32回生)、ゴルフ幹事 福島徹也(39回生) 荒木 究(45回生)、村山直也(50回生)、学生幹事 北川 光(61回生)です。次回は同会場平成30年11月10日(土)に同窓会を開催予定です(8月に案内送付予定)。参加希望の方は幹事福田 実 FAX:095-819-7776まで。



長崎県北同窓会として「還暦お祝い会」が平成30年3月8日ホテルロータスハウスで開催されました。20名が参加し、碓 秀樹(24回生)、宮原嘉久(25回生)をお祝いしました。牟田弘毅(25回生)と小田英俊(29回生)が幹事を努めました。県北参加者は社会人だけですが活発な活動を続けています。



長崎支部新入生歓迎会が平成29年6月28日(水)ガレージ酒場で開催されました。36名が参加し、新入生11名をお祝いしました。新入生を皆でサポートしていきましょう。

長崎支部ゴルフコンペが平成29年11月12日(日)に長崎国際ゴルフクラブで開催されました。好天に恵まれ参加者7名が楽しみました。優勝は荒木 究(45回生)でベスグロは村山直也(50回生)でした。次回は平成30年11月11日(日)に開催予定、参加者募集中です。参加希望の方はゴルフ幹事福島徹也 FAX:095-857-7400まで。

熊本の地での歓談が、深夜まで続きました！

熊本支部長 寺嶋隆則 (14回生)



布田川、日奈久断層による震度7の熊本大震災。それから2年が経過しました。熊本大震災の復興のシンボルと言われている熊本城の大天守の屋根には、漸く、鯨と瓦が上がりましたが、天守閣の完全復旧は、未だ2年後になるようです。又、城壁の石垣などの完全復旧には、あと20年間ぐらい、歳月が掛かると言われています。そのような大変困難な時期に、支部同窓会員の皆様は、職場、地域のリーダー的な方も多く、皆様がそれぞれの持ち場で、震災後の対応に尽力されています。

【平成29年度支部総会及び懇親会】

平成29年10月1日(日)にホテル日航熊本で平成29年度同窓会熊本支部総会が、開催されました。社会人会員32名、学生会員26名の出席でした。同窓会本部より、川嶋文信同窓会会長、高校より、町田健校長が、ご多忙中、ご列席頂き、さらに、平成30年7月29日(日)の同窓会定期総会の宣伝に田中健一郎幹事長(29回生)と稲益守(29回生)さんが来てくれ、支部総会も、さらに熱気溢れることになりました。又、久留米市より、22回生の堤俊翁さん、柳川市より33回生の古賀暢浩さんの参加もあり、新しい広がりも感じられます。支部会則の若干の変更が討議されました。総会での特

別講演では、40回生の立津央さんが、「ボストン留学記」との話題で、留学先での研究について、分かりやすく講演され、又、ボストンマラソンの参加や休日での旅行の楽しい思い出のスナップ写真を供覧されました。それに続く懇親会では、古川智裕(62回生)、森早希(63回生)、西隆寛(64回生)、八百山華(64回生)、黄相允(65回生)、草葉龍平(65回生)、城雄也(65回生)君等、7人の新入学生会員の自己紹介があり、又、彼らに対して、町田先生の高校での授業内容などに対し、面白い質問もあり、あちこちから、笑いが起こりました。2次会にも多くの方が参加され、熊本の地での、同窓会員の歓談が深夜まで続きました。

【平成29年度支部卒業生祝賀会】

俗に言う追い出しコンパが平成30年3月22日、熊本市下通の割烹の青柳で行われました。熊本支部になる前の久熊会時代から続いている卒業される学生会員のお祝いの会です。熊本支部になり、この会は、学生会員主催と、変わりました。社会人会員10名、学生会員17名の参加で、田中美和さん(57回生)、松永光平さん(60回生)、守口文花さん(60回生)の3名の方の卒業と門出をお祝い致しました。田中美和さんは、子供さんを抱いての出席で、この会が、一層おめでたい雰囲気になりました。男だけのむさくるしい支部の集まりが、徐々に変化してきています。



平成30年度の支部総会及び懇親会のご案内

日 時▶平成30年10月14日(日)午後4時より 場 所▶ホテル日航熊本
 講演会講師▶高島宏一(22回生) (株)ミライト・テクノロジーズ代表取締役社長
 連絡先▶ユニ建築設計有限会社 村上尚彌(33回生) TEL▶096-372-0004 URL▶<http://www.uni-a.net>

● 東京支部 ●

同窓生同士が回生を超えて活発に交流する中で、 多様な交流が可能に！



東京支部長
小田 恵介 (19回生)

去る6月16日、川嶋文信同窓会長が急逝されました。東京からの初めての会長として、会長就任以来3年にわたり同窓会のさらなる活性化に取り組み、大学、母校、後援会との絆をより強固にされました。同窓会として大きな柱を失うこととなり悲しみに耐えられません。謹んで心からご冥福をお祈りいたします。

多くの支部員を有する東京支部では、今まで様々な取り組みを行い同窓会活動の活性化をはかって来ました。

同窓生同士が回生を超えて活発に交流する中で、多様な活動が行えるようになりました。

東京支部では、懐かしい友との出会いの場であると共に、同窓会が持っている優れた資産を、同窓生皆さんが活用出来るような場をこれからも提供していきたいと考えています。

この春、66回生の卒業で、附設の卒業生は12,683名

に達しました。首都圏の同窓生は約4,000名を抱えます。毎年卒業生200名のうち、おおよそその半数の100名が、首都圏の大学に進学して上京して、東京支部の会員になります。

今日、東京支部があるのは、豊田勝業支部長(1回生)、渡辺望稔支部長(8回生)、長縄雅夫支部長(14回生)の、母校愛と、同窓生、在校生への並々ならぬ熱い思いによる長年の地道な活動と、それを支えていただいた、同窓生皆様のご支援のお陰です。

さらに同窓会の人的資源を活用していける場を、様々な形で提供して、『会員間の互助親睦並びに母校の発展』に、寄与したいと考えています。

さて、今年から長年の懸案であったサロン・ド・附設イン東京を復活させ、豊かな人材を誇るわが同窓会の同窓生が、相互に知見を共有する機会を設けるべく「附設塾」として開塾します。

今後、様々な業界の『附設の輪』が広がることを期待してやみません。福岡支部とともに両輪となって、同窓会本部を支え他の支部を応援していきたいと思えます。

長谷川房生元会長がめざされた『附設ファミリー』が名実ともに豊かになり、附設に学んだ事を幸せに思えるようになることを期待しています。

【支部での活動と今後の課題】

- | | |
|-------------------|-----------------------------------|
| ① 回生代表世話人会 | 4月、7月の年2回開催 |
| ② 附設東京ゴルフ会 | 5月、11月の年2回開催 |
| ③ 新人歓迎会 | 6月に開催 |
| ④ 東京支部総会 | 今年から10月上旬に開催 |
| ⑤ 就職セミナー | 12月、2月……今年で23回を迎える |
| ⑥ 他支部との連携 | 関西支部、中部支部、北海道支部、東北OB会など |
| ⑦ 東京事務局の開設 | 田町から2017年9月に東京交通会館1010に東京支部事務局を移転 |
| ⑧ サロン・ド・附設イン東京の復活 | 「附設塾」の開塾。 |

●東京支部●

平成29年度東京支部総会

開校70周年を迎えるわが校の
過去と未来をつなげる1日に!

幹事団長 田中昭彦 (34回生)

年々規模を拡大しつつ毎年秋に開催されております東京支部総会及び懇親会ですが、平成29年度は11月18日土曜日、「附設のつながり」をメインテーマに品川区大崎のブライトコアホールにてご来賓および卒業生約300名を集めて開催されました。

午後2時からの支部総会にて、本年中に逝去された物故者の紹介、小田支部長挨拶、高木副支部長の会計・活動報告、新人歓迎会、就職セミナーやゴルフコンペのご案内など例年通りの議事を終えた後、午後3時から懇親会へと移っていきました。

川嶋会長のご挨拶、来賓のご紹介に続き、来賓を代表して、今年から本校の校長先生に就任された、中学1回生高校23回生のもある町田 健校長よりご挨拶をいただきました。瀬高町の清酒「菊美人」による鏡開きのあと、今回の参加者の中の最年長である3回生の野田様より30余年前に初めて東京で支部総会を開かれた時のよもやま話をご紹介いただいたあと、乾杯の音頭をいただきました。

歓談の合間合間に、テーマに沿った企画を挟むことで会場の皆様が様々なつながりを意識できるような進行を行いました。

- 34回生の高倉慶応君が展開している、2020年に向けて世界各国の着物を製作する「イマジン・ワンワールド」のプロジェクトの紹介
- 来年の幹事団より福岡支部総会の案内
- 今回お越しいただけなかった恩師牟田和彦先生、中島文昭先生からのビデオメッセージ
- 会場での「附設とは？」のアンケート結果をうけた来賓の先生方（町田校長先生、西原和美先生、田中真弓先生、轟寿男先生）によるパネルディスカッション。
- 30年前と今の久留米や附設の様子がわかるイメージビデオ上映



最後の校歌斉唱・万歳三唱へとつながる一連の流れを、3回生から65回生まで皆さん堪能していただいたのではないかと思います。

特にパネルディスカッションでは、共学になっても変わらない附設らしさや、女子の強さ、初代板垣校長から原巳冬校長をへて町田校長につながる流れについて、限られた時間ではありましたが示唆に富んだお話を先生方から聞くことができました。

恩師や旧友との再会にもりあがったり、メディアでおなじみの鳥越俊太郎さんや本村健太郎さんとそこかしこで記念撮影が始まったり、年代を超えた意外なつながりを発見したりと、会場のあちこちで歓声がかかります。騒がしくも附設らしい同窓会となりました。後方の騒がしさにこらえきれずマイクを握られた西原先生が「離婚されそうになったら、次はぜひ奥さんもこの同窓会に連れてきてください、そうしたらなぜあなたが人の話を聞かないのかがわかってもらえるから」と発言されたときには、皆苦笑爆笑しつつも変に納得していたのではないのでしょうか。

まもなく開校70周年を迎えるわが校の、過去と未来をうまくつなげる1日にできたのではないかと思います。特に大きなトラブルもなく皆様笑顔でお帰りいただけたこともあり、幹事団一同胸をなでおろしました。

同時に配布させていただいたパンフレットには、ビデオメッセージで紹介した牟田先生・中島文昭先生のインタビュー全文を掲載、これがまた後日大きな反響を呼びました。

残念ながら中島文明先生はこの6月に他界されました。このインタビューが永久保存版になったね、やってよかったねと幹事を担当した同級生の間で思いを強くしたところです。

久留米大学附設高等学校同窓会

東京支部総会開催 のご案内

2018
10/6 土

14:00~14:30 総会 (13:30受付開始)
15:00~18:00 懇親会

**大手町サンケイプラザ
4階**

東京都千代田区大手町1-7-2
(大手町駅直結)

申込フォーム

右のQRコードもしくは
下記アドレスよりお申し込みください。



<https://goo.gl/forms/gDvnJZ7dGydJJWe93>

スケジュール詳細

受付 4階 ホール 13:30~14:00

総会 3階 セミナールーム (100名:教室形式)

14:00 開場
14:00~14:30 東京支部総会 (100人程度)
14:30~15:00 4階に移動

懇親会 4階 ホール (300名:立食)

15:00~15:30 鏡開&乾杯
16:30~17:30 イベント
17:30~18:00 中締&閉会

会費

シニア(1~19回生) & 女性 6,000円
一般(20~60回生) 9,000円
学生(61~66回生) 4,000円

会場案内

大手町サンケイプラザ

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2

地下鉄

丸の内線・半蔵門線・千代田線・東西線・都営三田線
『大手町駅』下車 **A4・E1出口直結**

JR

『東京駅』下車 丸の内北口より 徒歩 7分

連絡先

35回生幹事団 高尾野 健 (幹事長)
fusetsu35@gmail.com ttakaono@gmail.com
090-8492-4004





ウィンザー城 (UK)

江上大地 (49回生)

東京大学経済学部卒業後、伊藤忠丸紅鉄鋼入社。現在、伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社ロンドン支店。

石油・ガス輸送パイプラインに使用される鉄鋼製パイプを販売。主にオイルメジャーや欧州・アフリカの石油ガス会社・敷設会社等へ営業。

22回生江上靖則の長男です。

メールアドレス：
egami-d@mi-steel.co.uk

業務用パイプ作業写真



私のロンドン雑感

こんにちは！ 49回生の江上大地と申します。伊藤忠丸紅鉄鋼という鉄鋼商社に勤めております。2015年5月からロンドン支店に着任し、早いもので駐在4年目になりました。ロンドンに来て一番驚いたことはパブの多さと立ち飲み文化です。レストランの集まる中心街や有名な買い物ストリートのみならず、市街地を歩けばそこらじゅうにパブを見つけられます。夏は老若男女一斉に外で立ち飲みしていて、特に週末の仕事帰りは、パブの前やちょっとした広場は人でごった返し状態です。自分もたまに紛れています(笑)。Greene King IPAやLondon Prideは地元のパブでよく飲まれています。

大英博物館をはじめ美術館・博物館は基本的にエントランス無料です。また、グラフィティアーティストのミューラル(壁画)も歩いて見回れます。私はミーハーなため、有名な作品しか興味がないのですが、好きな方はヨダレが出るくらいの環境かもしれませんね。

個人的に一番気に入っているところは公園の多さです。ハイドパーク、リージェンツパーク、セントジェームズパークはロンドナーの憩いの場でカップルやファミリーで年中散歩、温かくなると皆日光浴しています。なお私の大好きなバーベキューはできません。

イギリスの治安は？ と聞かれることがあります。今は落ち着いていますが、2017年はマンチェスターでの自爆テロ、ウェストミンスター橋、ロンドン橋でのテロと死傷者の出る事件が続きました。英国は先進国で防犯・監視カメラの数が最も多い(私的・公的機関の運用合わせると600万台)と言われています。未然にテロ犯罪を防ぐことに貢献していますが、超監視社会とも言えます。肌感覚では身の危険を感じるようなことはこれまでありませんが、気は抜かないように努めています。

あと聞かれることといえばBrexitって今後どうなるの？ という質問です。2016年の国民投票で決まったEU離脱は当方も間近で目撃し、マジか!? という感じでしたが、やはり英国でモノを生産している乃至は経由している日系企業、英国で域内統一の単一免許を取得している金融機関(銀行・証券会社等)は影響を受ける可能性があるかもしれません。ヒト・モノ・サービス・情報の行き来に新たにボーダーができるわけですから、様々なことが面倒くさくなりそうです。それでも国民の総意としては移民の管理と金融緩和が喫緊の課題だったのでしょうか。以前よりポンドが安くなったので旅行はし易くなったかもしれません。

英国民にとって最近の明るい話題と言えばハリー王子とアメリカ女優のメガン・マークル妃の結婚でしょうか。エリザベス女王(ちなみに現在92歳)をはじめ、英王室は国民にかなり人気があり、ウィンザー城の聖ジョージ礼拝堂で行われた結婚式は、これまでの王室結婚式とは一風違い、「スタンドバイミー」が合唱される等、多様性をアピールした内容となりました。お似合いのお二人、末永くお幸せに～!

他にもプレミアリーグやホースレース、クリケット、ゴルフなどのスポーツ、湖水地方(ピーターラビット発祥の地)、ハリポタツアーなど魅力が満載の英国です。昔とは違い? 食事も十二分に楽しめます。日本からは遠い地ではありますが、附設の先輩・後輩の方々が立ち寄っていただければ嬉しい限りです。



堀岡大祐 (42回生)

1999年、みずほ銀行の前身の日本興業銀行に入行。中堅中小企業営業、企業審査、大企業営業、事業会社出向を経て、2011年にシンガポール支店に駐在。シンガポールでは日系企業、営業企画を経て2015年より非日系企業の審査・調査業務に従事しております。昨年椎間板ヘルニアになったので、ゴルフは控えております。

メールアドレス：
d.horioka@gmail.com

シンガポールが見つめる先

みずほ銀行シンガポール支店に勤務しております42回生の堀岡と申します。当地には2011年4月に赴任して参りまして、既に8年目となります。赴任当初は、在シンガポール日系企業のお客様の営業担当、その後営業企画、そして現在はアジア・オセアニア地域の非日系企業取引先のクレジット調査、行内の信用格付業務を行っております。みずほのシンガポール支店には約800人のスタッフが勤務しており、アジア・オセアニア地域の本部として、近年オペレーションが急拡大しております。

シンガポールは、ビジネス環境の良さ、日本との時差一時間、約7時間のフライトで往来できる地理的な近さから、多くの日本企業が進出し、在留邦人は3万人と言われております。附設OBも42回生同期の池田貴紀君(新日鉄住金)をはじめ、(確認できているだけで)10名おり、定期的に懇親会・ゴルフ会を行っております。今は全員男性OBばかりですが、そろそろ女性の附設出身者もシンガポールで活躍される方も出てくるかもしれません。シンガポールは治安も良いため、多くの企業で女性の駐在員を派遣しています。

ここシンガポールでは、先日、注目の米朝会談が開催されました。会談の数日前から、シンガポール空軍の戦闘機やヘリが市内上空を旋回し、物々しい雰囲気となりました。普段、制服の警官を町で見かけることは少ないのですが、さすがに会談前後は多くの警官・武装警官が警備にあたっていました。日本でも米朝会談に関する数多くの報道がなされたと思います。私の職場のシンガポール人の中では、交通規制に不満たらたらで、いい迷惑だと言わんばかりでした。さすがに極東の朝鮮半島問題は、いまいちピンときていないということでしょう。

今回の米朝会談以外にも、過去には2015年に、中国と台湾の初の首脳会談が開かれており、シンガポールは、アジア地域で重要な役割を演じる機会が多くなってきています。

シンガポールは、国民の7割が華人の国ですが、中国に対する視線には複雑なものがあるように感じます。逸早く経済発展を成し遂げたシンガポール人としては、『華人』ながら『中国人とは違う』という意識が強いように感じます。赴任当初、職場のシンガポール人が『They are not sophisticated.』と言っていたのを覚えています。しかし、国家としてのシンガポールは、中国と共同経済プロジェクトをいくつも行っており、民間企業も数多く中国内に進出しています。一方、国防は米国と連携しています。この独自のポジショニングが、歴史的な会談が行われる素地となっております。小さな国ですが、存在感のあるエキサイティングな国です。

シンガポールに駐在し、現在、非日系企業をウォッチしている私から見ると、シンガポールのみならず、東南アジアの国々は中国を見ています。アジアの政治・経済環境が変化していく中、私たち日本企業も負けずに、ビジネスチャンスを見逃さないよう、中国・東南アジアの発展に貢献できるように頑張っていきたいと思っております。附設のネットワークも大いに活かしていければ、尚素晴らしいことだと思います。シンガポールにご出張・ご赴任される際には、ぜひご連絡ください。





遠山 智昭 (27回生)

昭和60年 京大・経卒

同年 住友商事(株)入社

在地：上海・台北。

現在、3回目の無錫(18年8月現在)

酒と手術の事

駐在3回目の当地(中国・無錫)も含め海外生活が長く(合計16年超)、またそろそろ歳でもあり健康には留意しているが、数年前、脳の手術を受けた。

健康に普通の生活を送っており安心してこの駄文をご一読頂きたいのだが、病気の種は本人気付かないまま身体の中にあり、場合によっては突然発症する、という事を自覚すると共に、幸い見事に完治してくれた現代医療技術には感謝の念を新たにす。以下はその経緯を纏めたもの。

休暇で帰国の際に毎年受ける人間ドックで、偶々思いついて受けた脳ドックの結果、送られてきた診断書が「要再検診(緊急)」。脳内に玉子大の血痕があると言う。病名は(長くてすみません)「先天性脳動静脈奇形による血管破裂(による血痕)」。詳しくは省くが、手足の痺れや癲癇も全く無い事からその病名は俄かには信じ難く、血管破裂の自覚も無い。ただ怪しいと思ったのがその数か月前にあった「社内旅行」。

中国は会社全体での社内旅行の習慣があり、派遣されている会社も恒例の旅行に出た。問題は夜の宴会。瞬く間に全員で飲み合いとなり、やがて矛先は総経理(社長)の私に。酒の場数は踏んで来た積りだし、大した酒量も無いと判っているのに、いつもならウツチャるところ、丁度、会社のリストラ計画中で社内に不穏な雰囲気が漂っていた事から、社員1人1人とできるだけ丁寧に飲み、結果乾杯が増え1時間もせず沈没したがこれは覚悟の上。ところが翌日、頭痛が酷く、移動のバスの最後列シートで寝て過ごした。この頭痛は初経験で、ワル酒? 歳? 一方、額にアザがあり頭を打ったか何かの痕跡あり、今思えばこれが血管破裂の原因だったかと想像している。

放置すると再破裂の危険あり、薦められた放射線治療を後日受けるのだが、それまでの数か月間、医師の了解も得て中国に帰任し業務を継続した。その間、万一に備え、地場病院(一流レベルと聞く)も受診したが、中国がそうなのか、医者というものが世界中そうなのか判らないが、盛んに「私が手術しよう」と誘って来る。盲腸とか骨折とかならいいぞ知らず「脳」ではその勇氣は無く、お断りした次第。

東京での放射線治療は、フランケンシュタインに被せるヘルメットの様なものを使い脳内一点に放射線を集中照射し患部を焼切るもの。麻酔で寝て痛みも無く、術後2年の現在、患部は順調に縮小し近々の最終検査で完治となる予定。重量挙げや深水ダイビング等、血圧が急激に変化するスポーツは止められているものの、医師の了解も得て当地のマラソン大会参加も果たした。

以上の経緯は、当社社員にも伝えているからか、その後、社内の飲み会で乾杯を強要してくる事が少なくなって来た。その分、もう一人日本派遣の若手にシワ寄せが行っているような気もしており、彼には申し訳なく思っている。まともに受けるなどアドバイスしているが、必ず目と目を合わせ乾杯、という当地の酒の飲み方の為か、完全に逃れきれてはいないようだ。

15回生。古稀を迎えた現在まで、自由気儘な人生を送っています。

古澤生敏 (15回生)

1948年(昭和23年) 鳥栖市にて出生
1967年(昭和42年) 附設高校卒業
1972年(昭和47年) 神戸大学卒業
同 年

三井銀行入行 支店長歴任後
2001年(平成13年)

三井グリーンランド常務就任
2007年(平成19年)

同子会社社長歴任後、
同社取締役辞任

2008年(平成20年)

九州龍谷短大で仏教を3年間学ぶ。
凡人古澤は悟れぬ事を悟る。

現在は地元広川町で隠遁生活を目指すも、中央公民館長や選挙管理委員を依頼され高齢の割には多忙な毎日を送っている。

我々15回生は1964年の東京オリンピックの年に入学し、旧兵舎の木造教室で学んだ定員150名の最後の世代です。朝礼も生徒会もクラブ活動も無く、自由で自主性を尊重する校風でした。この校風の影響か古稀を迎えた現在まで、自由気儘な人生を送っています。

卒業後50年が経ち、古稀の祝いを兼ねて関東、関西、九州各地から久留米の地に55名の同級生が集結し、50年振りの再会に歓を尽くした次第です。

50年の風雪に耐えた頭や顔や体型は、それぞれに違いはあれど、皆穏やかな良き表情で正に男の履歴書其の物で見応えがあった。

恩師大石亀次郎先生に習った論語「七十而従心所欲、不踰矩」の教えを守り皆哲人の風あり。

ところで現在では、男は人生八十年が標準で、百歳辺りが現代版「稀」と言える。大隈重信翁は、125歳説を唱えたが、果たして現代版「稀」に届く同級生は誰か。残された人生は不明なれど、「従心」の志を持って余生を楽しみたいものだ。

記念写真参加者氏名 (全55名)

永尾和夫、楠田宙生、増田 章、西岡脩一、飯盛克己、服部哲武、梅野高司、松崎正洋、伊藤彰啓、菅原謙三、原口行雄、近藤正一、国崎武敏、合羅謙次、石村英二郎、吉田 博、碓 泰生、永田 宰、上田 寛、平田三郎、津山 哲、今村由紀夫、高田常弘、藤野 進、荒木新五、山本 繁、高島義昭、坂田博道、松本英一郎、佐藤隆昭、石橋千睦、緒方寛陽、尾関信泰、矢野 真、鹿毛茂利、小材天良、山脇 均、行徳英明、釜我健二、伯川志郎、城崎泰雄、飯田博史、伊藤正義、澤熊芳生、大鶴秀明、古澤生敏、大島道雄、今村健一郎、平田博明、大浦純平、福井英二、高松基助、小宮弘道、坂井良次、岡 超一

以上、敬称略。

*氏名は右から上段・永尾君、中段・平田君、下段・釜我君～岡君。

写真撮影：永尾和男
名簿作成：緒方寛陽



24回生、 還暦同窓会にて42年ぶりの再会

田尻 祐司

(高校24回生)

昭和32年10月3日生(60歳)
昭和59年、九州大学医学部卒業
同年、九州大学医学部第三内科(現在の病態制御内科)に入局
平成6年～8年、スウェーデン王立カロリンスカ研究所に留学
平成19年より、久留米大学医学部内科学講座 内分泌代謝内科部門 准教授
平成30年より、同教授 現在に至る
専門分野：糖尿病、肥満、生活習慣病
趣味：ランニング

高良山下の学園を卒業して、各々の道を歩き始めてから早いもので42年が経過し、昭和32年、33年生まれの我々附設高校24回生は平成29年度にめでたく還暦を迎えました。まさに「光陰矢のごとし」、あっという間の42年間でした。それぞれの世界で活躍してきた皆も初老の頃となり、すでに現役を引退している人、孫の世話を追われている人、いやいやまだまだ現役バリバリの人など、様々なスタイルで日々の生活を送っていることと思います。そんな皆が本当に久しぶりに一堂に会して昔を懐かしみつつも近況を報告することを目的として、久留米市内在住の我々が中心となって「還暦同窓会」なるものを企画しました。平成29年12月30日に久留米市内のホテルに24回生52名が一堂に会して、佐々木 健治 先生、江上 寛二 先生、阿部 逸郎 先生、田中 真弓 先生の4名の恩師(順不同)を囲んで、約3時間にわたり旧交を温めました。大変残念ではありますが、我々24回生には亡くなった同級生が5名程おります。しかしながら集まってくれた同級生は皆大変元気であり、彼らのことを思い出しながら還暦を無事に迎えた喜びを分かち合うことができました。

我々24回生の約半数は、附設中学の第2回生です。このうち約半数(50名くらい)が、私のように高校から入学した約100名とともにA～Cクラス(Aが文系、B、Cが理系)を構成し、残り約50名がDクラスとして3年間を過ごしました。Cクラスの吉永 陽一郎 君の司会のもと、同窓会幹事である下川 敏弘 君のあいさつで同窓会が始まりました。クラスの垣根を越えて、皆42年前の懐かしい出来事を思い出しながら、歳月の流れを確認し

つつ、楽しい時間が過ぎて行きました。恩師のごあいさつの時には、やんちゃであった時代を思い出して、起立して恐縮しながら拝聴する光景もみられ、会場の笑いを誘う場面もありました。参加した同級生一人一人からの近況報告では、各々の42年間を思い出しながら、楽しかったこと、逆に辛かったことなど様々な人生模様を語ってもらいました。やはり同級生は良いものですね。最後は、「♪高良山下の学園に……」で始まる校歌を、Dクラスの斉藤 考由 君の指揮のもと一同で斉唱し、還暦同窓会はお開きとなりました。

24回生は1999年12月にも久留米市内で同窓会を開いております。この18年の間にも、皆さん年齢を重ねてそれなりに変化がみられました。次に集まるのは古希でしょうか。百寿時代といわれる超高齢社会の真ただ中を生きる我々は、節目ごとに再会できることを楽しみにしながら、皆健康で長生きすることを目標に頑張っていきたいと思います。



久留米大学附設高等学校24回生 還暦同窓会 H29.12.30 於 ハイネスホテル

江戸文学研究の第一人者・中野三敏先輩が、 文化勲章を受章されました!!

—昨年、2016年秋、江戸文学研究の第一人者である、2回生の中野三敏先輩が文化勲章を受章されました。附設同窓生としては、同じく2回生の國武豊喜先輩の2014年の受章に続く栄誉で、心よりお喜び申し上げます。同窓会としては昨年春に故郷の久留米シティプラザでの記念講演会を企画しましたが、中野先輩の健康が優れず残念ながら実現しませんでした。

昨年の同窓会報で、同窓生のみなさんにお知らせすべきところ、広報委員会の不手際でお知らせできず心からお詫びいたします。

この度、ご息の中野学而氏(39回生)のご協力の下、中野先輩から若き後輩たちに送るメッセージが寄せられました。同窓会報No.20に掲載した「高良随想」の記事と合わせて紹介します。

■近頃、気になること (「坊ちゃん」風に)■



■中野三敏（なかのみつとし）氏のプロフィール

- 1935年福岡県生まれ。日本文学研究者。江戸から明治期の文学を研究。九州大学名誉教授（元文学部長）。
- 1998年紫綬褒章受章。2010年文化功労者。2012年瑞宝重光章受章。
- 2013年1月10日に、皇居正殿「松の間」での講書始において「江戸文化再考」と題した御進講を行う。
- 『戯作研究』中央公論社1981年。『江戸名物評判記案内』岩波新書1985年。
- 『写楽 江戸人としての実像』中公新書2007年。『和本のすすめ—江戸を読み解くために』岩波新書2011年。
- 『くずし字で「東海道中膝栗毛」を楽しむ 古文書入門』角川学芸出版2012年。
- 『江戸文化再考—これからの近代を創るために』笠間書院2012年など著書多数。

この所、殆ど同じことばかり書いている。それは、身の廻りにいる連中が、余りにもくずし字（漢字と平仮名があり、いわゆる変体仮名となると、一音で、「あ」なら「あ」だけで、三字から五字ほどもある）が、読めなくなっていて、しかも、その状況が引き起こしている大問題には全く無関心だからである。そのくせ英語にはやたらと敏感で心配ばかりしている。勿論、英語は出来るか出来ないかで、モロに商賣に響くので、敏感にならざるを得ないのだろう。当然しゃべれるにこした事はない。しかしくずし字の方は、我々古典研究者（それも江戸）だけは商賣にも響くが、それ以外は全くそういう事はない。

しかも小学校以来、そういう字は習ったこともないから、読めなくなつて当たり前、読めるのはむしろ変態だと思わらしい。読める人は何人くらいかという、恐らく五千人いるかないかだろう。日本人の九割九分九厘九毛くらいは、読めないんじゃないか。

その癖、そんな手合いに限って、したり顔で“古典は大事だ”とか、“日本ほど古典に恵まれた国は無い”などという。この連中の考えている“古典”というのは精々教科書か、文庫などで活字になっているものをいうので、恐らく大事なもの全部活字になっていると思ひ込んでいるらしい。とんでもない話で、実際の所活字になっているのは、明治以前に出来た書物の、ほんの二%くらいに過ぎないのに、何が古典だ。コテン、コテンにやっつけてやろうかと思つたが、自分が外国語が全くできないことに気が付いて、ひとまず引込めた。

何時からこんなことになったかという、実は明治三十三年の小学校令で、以後は平仮名は一音一字にしようと決まって以来という。この頃、日本人の九割は尋常小学校（四年制）止まりだったそうだから、これは無理もない。その代り、今は、自分の頭に合った程度というものを考えれば、誰だってどこかの大学へは行けるだろう。明治三十三年とは正反対の状態だ。それなら小学生にくずし字を教えて何が悪い。べらぼうめ。

明治三十三年以前に書物になったものは、間違い無く、全部がくずし字と草書体の漢字で出来ている。だから、活字しか読めないと、活字になっている本を除いては、明治三十三年以前には一歩も遡れなくなってしまう。これこそ最初に書いておいた通り大問題だろう。下手な外国語使いが、外国へ行って、一応インテリ顔して、外人に江戸の絵本か何か（これが又、山ほどあるんだ）見せられて、コレ何テカイテアリマスかって聞かれて、わかりません、読めませんではすまないだろうの。

何だか「坊ちゃん」風にと書いたけど、最後はタケシ風になってきたので、やめます。スイマセン。



狂者のすゝめ ——重箱の隅をつついて宇宙を見る

中野三敏 (2回生)

このたび同窓会東京支部長の小田さんより、長男を通じて寄稿のお誘いを賜りました。受章自体は一昨年のもので、すぐに小田支部長から記念講演の企画をいただいてもいたのですが、体調が思わしくなく、お受けすることができず誠に申し訳ありませんでした。このたび、改めて何か若い後輩たちへのメッセージをとということですので、この際、お世話になった方々への心よりの御礼の意味も込めて、ガラにもなく人生論めいたことを一言書かせていただこうと思った次第です。

佐賀の武雄の田舎で、友人たちが見向きもしない地味なオトシブミ(小さな甲虫の一種です)を探して山の中を走りまわっていたころからの天邪鬼(あまのじゃく)で、世間で人が何かにかぞって熱中しているときには、そこからできるだけ離れる。人が興味を示さないものにこそ、本気でめりこむ。私がこれまで打ち込んできた江戸時代の和本というものは、私の若いころからつい最近まで、まさに何の役にも立たないものとしてしか考えられていませんでした。無理ありません、私たちの世代はみなあの敗戦で世界の価値観が完全にひっくり返る経験をしています、そのように破滅的な戦争を終えたあと、いや、それを言えばあの明治維新以降ずっと、日本はまさに国を挙げ、政治、経済、社会、文化科学のすべての分野において、もっぱらアメリカやヨーロッパに範を取りながら頑張ってきていたわけですから。

時代錯誤じゃないか、などずいぶんいろいろなことを言われもしました。私自身、近代文明の恩恵に十分あずかってはいますし、その意義もありがたさもしっかりわかっています。しかし、意図的にそこから離れてみることでしか見えないものがあることもまた疑いえない。私にとってそれは結局のところ、封建制度が可能にしていた人々の明るいころのありかた、としか言いようのないものでした。「お上」が民に対して絶対の責任感を持ち、民はそのようなお上を大きく信頼する——和本の世界は、私に、ついこの間まで、まさにこの日本の地に、近代の民主主義の原理とは根本的に異なる豊かな倫理観が生きている世界があったことをまざまざと感じさせてくれたのでした。

やがて、そのように仰ぎ見てばかりいた欧米に日本が経済的に追いつき、追い越し、9・11や3・11のような近代文明の過ちを決定的に思い知らされる破局的な事件も世界各地で相次ぐなか、徐々に世間の風向きも変わってきます。あまりにも拙速な近代化のなかで、我々は何か大事なものをどこかに忘れてきてしまったのではなか

ろうか、という危機感が世間にも共有されるようになってきた。江戸時代のくずし字を読める人がほぼ絶滅しつつあることは本当に残念ですが、最近私の教え子たちがスマホ用の学習アプリを開発してくれたり、少しずつなりとも認知の兆しが見えつつあるのもうれしいことです(「くずし字学習支援アプリKuLA」といいます。早速お試しあれ!)

なんとかモト暗し、というように、近代や現代の知性というものはなにかをピンポイントにつきつめることが至上命令ですから、必ずそのスポットライトからこぼれ落ちてしまうものが出てくる。そのような世界観の中では、封建制の江戸社会など、暗黒の差別的な社会でしかなかったかのようにしか語られえない。これは本当にもったいない話だと思います。皆さんご自身の祖先がいったいどれほど豊かな時代を生きていたのか、本当のところを知ってもらいたい。地図の伊能忠敬、和算の関孝和などの恐ろしいようなイノベーターの存在だって、江戸社会の根本的なあり方とどこかで深く結びついていたはず

です。そういえば、いま世間では起業がブームのようで、特にこの附設高校はその方面の偉大な先達にもたくさん恵まれていますね。國武君や孫さんご兄弟、堀江さんのような人たちは、まさにたくいまれな現代のイノベーターなのでしょう。しかし起業や研究を支えるイノベーションというものだって、「ブーム」に乗ってばかりではたぶん心もとない。世の中の流れを読みながらも、そこからあえて距離を取り、たとえ何度失敗を重ねようと、自分が本当に魅かれることだけにとことん没頭することによってこそ、真に大きなイノベーションは生まれてくるのではないのでしょうか。江戸時代には、そのような人は「狂者」と呼ばれたものでした。

蛇の道は蛇、世の中から見捨てられたくずし字で書かれた江戸時代の和本を愛でることのすばらしさを教えてくださる先達に運よく恵まれた私は、「後ろ向きに前へ進め」をモットーに、いわば「重箱の隅」をつつき続けてきたわけですから。誰も取り合わないような重箱の隅だ、いや重箱の隅だからこそ、長い間つき続けていると、いつか小さな穴が開き、底が破れ、その向こうに誰も見たことのない宇宙が広がることだってある——若い皆さんが、心のどこかにそんな不屈の「狂者」をしのばせ、この難しい時代へ向かってはばたいてくれれば、と思っています。



左から、松崎君、藤井君、紀井君、日高君

起業家予備軍の甲子園 第5回 高校生ビジネスプラングランプリ

主催 日本政策金融公庫

附設生が、 ファイナリスト10・優秀賞の快挙!!

上河達郎 (31回生)

31回生の上河達郎です。大学卒業後28年間銀行に勤めていましたが、一身上の都合で地元Uターンの必要が生じ、3年前に縁あって久留米市役所に転職して公務員になったという経歴のOBです。現在、久留米市商工観光労働部新産業創出支援課創業支援チームで課長補佐(チームリーダー)をしています。

今回ご紹介したいのは、「高校生ビジネスプラングランプリ」というコンテストでの附設生の活躍です。2年生4人のチームが、全国から応募した385校、過去最多3,247チームの中から書類審査を経てファイナリスト10組に見事勝ち残り、平成30年1月7日(日)、東大で開催された最終審査会においてプレゼンテーションを行いました。その経緯を是非とも同窓生の皆さまにご紹介したいと思います。

「高校生ビジネスプラングランプリ」とは

日本政策金融公庫が主催する全国の高校生を対象としたビジネスプランのコンテストです。公開の最終審査会が東大で行われ、起業家予備軍の甲子園とも言われるグランプリです。その立ち上げには孫泰蔵氏(39回生)も関わり第1回グランプリの際に基調講演をされる等、実は附設高校とも関わりのあるグランプリです。

附設高校参加の経緯

久留米市は、起業家教育の一環で当グランプリへの参加の支援を行っています。昨年度、附設OBである私



同窓会激励会@学生会館 (後列左端が筆者)

が創業支援チームに異動したことをきっかけに、附設高校にも初めて声掛けしました。その中で生徒に直接プロモーションする機会を作っていたいただいた結果、日高清光、紀井大空、藤井邑成、松崎広太の4人の生徒(2年生)が自発的に手を上げてくれたという経緯です。ここから私とメンバー4人との二人三脚が始まりました。

取り組み内容

(1) アイデア出し

まずはアイデア出しです。実は生徒たちは、手を上げた段階で大まかなテーマを決めていました。商店街の空き店舗を使って子どものための職業訓練所(キッズニアのローカル版)を作るというプランです。今時の高校生、特に附設の生徒が、まさか商店街という極めてローカルでアナログな問題に関心を持っているとは夢にも思わず、正直驚きました。

(2) アイデアをビジネスプランに

ここからが私の出番です。ビジネスは学園祭の出し物とは違います。事業の具体的サービス内容をどうするか? ターゲットは? 必要な資源は? 必要経費は? 誰が誰からお金をとるビジネスか? 価格設定は? 採算は? ワークショップの中での私の質問に、彼らも最初は面食らっていましたが、さすが優秀な後輩たち、どんどんアイデアが出てきます。長い商店街で回遊効果を高める工夫(6種類の体験をたくさんある空き店舗を利用してバラバラに設置)、参加者を飽きさせない工夫(施設の場所は固定せずあえて短期間で入れ替える)、コスト削減の工夫(シャッター店舗や既存の設備の利用やボランティアの活用)等のアイデアが湧き出てきました。また利用するシャッター店舗におそうじサービスを提供して無償提供を促す工夫等、モチベーションを刺激して実現性を高めるアイデアも彼らが考えました。その後長い期間議論して、ワンコインでさまざまな職業体験(買い手よし)、コストを極限まで削減(売り手よし)、商店街に再び賑わい(世間よし)、子どもパワーで商店街の人の意識改革(プラスアルファ効果)と、近江商人の三方よしを超えた究極のWIN-WINビジネスのプランが仕上がりました。

見事TOP10に選出

12月に入って朗報が飛び込みました。彼らが応募したプランが、見事TOP10に選出です。九州からTOP10の選出はめったになく、しかも地元有数の進学校が、しかも難しい地域課題である商店街をテーマに見事なプランを仕上げているということで、主催者側でも大変な反響があったという話を聞きました。

市を挙げて応援

本番は東大での6分間のプレゼンテーションです。気合の入った附設OBの私を中心に、タウンマネージャーにも協力を要請し商店街の取材をしたり、シャッター商店のシャッターを開けてもらい内部の様子を見せてもらったり、体験メニューの久留米餅のコースターづくりをみんなで実際に行い、審査員向けの手作りのサンプルも準備する等、最大限協力しました。

練習も必要です。新しいランドマーク久留米シティプラザで公開の激励会兼発表練習会を企画しました。商店街をテーマにした地元の高校生の偉業ということで、行政(国、県、市)、商工団体、金融機関、報道機関、商店街の皆さん等、彼らのためにたくさん集まってくれました。同窓会関係者もたくさん参加いただきました。さらに現在シンガポールを中心にご活躍しこのグランプリと縁も深い孫泰蔵さん(39回生)も、後輩への激励メッセージを寄せてくれました。

いざ東大、同窓会での大激励会

年が明けて、いざ東大での最終審査会です。附設からは池ノ戸先生と4人のメンバーが上京で、審査会前夜、同窓会での大激励会を企画しセッティングしました。同窓会、同窓会東京支部に快く協力いただき、川嶋会長、高橋副会長、小田東京支部長、安部副支部長、砂場副支部長、現役大学生OB2人、31回生応援団(私の同期)3人と私というメンバーで、神田の学士会館で大激励会を実施しました。やはり後輩たちの活躍はOBにとって大変うれしいものです。まさに後輩たちの甲子園出場に熱狂する高校のOBのように、大変盛り上がった会になりました。



応援団

グランプリ当日

最終審査会は東大伊藤謝恩ホールです。練習の成果もあり、本当に堂々と立派な発表でした。その時のエピソードの一つです。質疑応答の部分で、審査員から、少し意地悪な質問がありました。

「プランは素晴らしいと思うが、そもそもなぜ商店街に人が来なくなったのか?そもそも商店街を活性化させることが必要なのか?」行政の商店街支援担当者でも答えに窮すると思われる難しい質問です。

彼らの答えは見事でした。

「このプランを策定する中で、タウンマネージャーに商店街を案内いただきいろんな商店街の方々にインタビューした。その中で、ある布団屋さんの店主が顧客300人の全ての顔と名前を覚えているということに感銘した。大型店にはない人と人とのコミュニティが商店街に存在する。子供たちにそういうことも伝えたい。商店街は必要だ。」

他校も含めた質疑応答の部分で、唯一会場から拍手が起きました。お世辞抜きに素晴らしかったと思います。グランプリや特別賞の受賞は叶いませんでしたが、3,200を超えるチームの中でのTOP10、荣誉ある優秀賞です。

その後

彼らのプランは、全国の商店街の課題解決のヒントになるアイデアとして、実際に関係者に注目されました。

何と経済産業省主催の商店街活性化人材育成研修のテーマの一つに選ばれました。3月に久留米で行われた研修で、実際に国の施策の策定に関わる経産省の関係者や商店街関係者等を前に、再び堂々とプレゼンする機会をいただきました。

また、彼らのプランに背中を押され、長年のシャッター店舗のシャッターを開けて賑わい作りの仕掛けづくりをやってみようという動きが久留米の商店街で実際に起きました。

彼らのアイデアは、全国の商店街においてこれからいろんな形で活かされていく可能性があると思えます。

後輩の活躍はOBとして本当にうれしいものです。それを今回サポートして一緒に取り組めた私は本当に幸せでした。いろんな方に幅広く協力いただいたことも感謝の念に耐えません。これからもグランプリは実施されます。今後も後輩たちへの声掛けを続け、再び次の後輩たちと一緒に取り組める機会ができることを心より期待しています。



野田隆昭 (3回生)

1936年 (昭和11年)

久留米市に生まれる。

1955年 (昭和30年)

附設卒業

1961年 (昭和36年)

東京教育大学卒業

同年 証券会社入社 (調査部)

その後独立。ギャラリー百号を渋谷で起業。

70歳でリタイア。毎週スペイン語の専門学校に通うなど、忙しく過ごしている。

思いで・附設草創期

私達3回生の入学 (昭和27年・1952年) で、全学年がようやく揃いました。終戦後の物不足に加え、新設校の悲しさ、校舎は兵舎跡の馬小屋。講堂も体育館などもなし。まったく貧相な学校でした。

だが、「国を担う人になれ」 (板垣初代校長) の建学精神の下、主要科目は充実していました。(授業内容については、同窓会誌21号の拙文を参照してください。) ただ、選択科目の中には、大学受験にはあまり縁のない大学の専門課程で学ぶような授業もあり、それはそれで十分楽しめるものでした。

母校を思うときトップに思い出す先生は、「亀ちゃん」こと、漢文の大石亀次郎先生です。いがぐり頭に八の字髭。黒縁の大きな眼鏡。三つ揃いの背広姿。チョッキのポケットには、懐中時計。授業中は、右手の親指をチョッキのポケットに入れて、左手に教科書を持ち、素読しながら机の間を歩かれる姿です。

当時、生徒は丸刈り・坊主頭が義務付けられていました。ある日の授業中、生徒Sの長髪が先生の目に留まりました。先生はSの頭を撫でながら、「ずいぶん髪が伸びたな～。そろそろ床屋へ、行ったらどうだ。」「勉強が忙しくその暇がありません。」「そうか。身だしなみも大切だからな。」

また、ある日の授業中では、「諸君の中に、信心深い生徒がいるのに感心した。線香があげられていた。ただ、線香の火はよく消すように。火事になると困るから。」校舎に、隣接して墓地がありました。ちょっとヤンキーな数名の生徒が、昼休みにそこでタバコを吸い、吸殻を墓石の前の線香置きの皿に捨てていたのです。

勿論、両者とも校則違反です。先生は処罰することなく、反省を促されたのです。私は、大石先生のこの指導に、教育の神髄を見る思いがしています。罰するのは簡単です。しかし、これらの逸脱行為は、思春期特有の、殻を脱皮したいとの思いから出た逸脱行為です。殻を破ろうとするエネルギーを潰すことなく自制を促されたのです。

この様に、私達は生徒を一人の人間として、個性を尊重し自主的に自己の確立促す教育を受けてきました。

ただ残念なのは、新設校の悲しさ。クラブ活動や体育会活動の為の部室や運動具の余裕がなく、授業が終わるとすぐに帰宅したので、学年をまたいでの交流が全くなかったのが心残りです。

人生の二つの転機

～天邪鬼人生のすすめ～

はら すすむ
原 享

(中学1回生・高校23回生)

昭和32年2月22日生(61歳)
昭和55年東京大学経済学部卒
日本石油(株) 入社

その後三菱石油・新日鉱G・東燃Gとの合併による社名変更後、JXTGエネルギー(株) 取締役常務執行役員リソース&パワーカンパニープレジデント。
同じエネルギー業界に身を置く者として、急逝された川嶋同窓会長には、公私共に大変お世話になりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



第一の転機：サッカーとの出会い、ゴールキーパーというポジション

中学1回生は45名1クラスでしたが、グラウンドの関係で当時断トツ人気の野球部は作れず、サッカー部に入部しました。12人でスタートし、唯一の補欠という悲哀を味わったのですが、たまたまゴールキーパーが退部したため、当方にお鉢が回ってきました。結果的に、運動神経は今ひとつでしたが、反射神経は良かったようで、いきなり試合でPKを止めるなど、ゴールキーパーとしてソコソコ活躍でき、クラスでも存在感を出せました。

実は石油会社(旧日本石油)に入社した後、ガスや電気事業を担当することになる訳ですが、これがタイムリーに幸いました。他の人には出来ない仕事、他の人にはない人脈・情報を持つこと、これがゴールキーパーと同じ特殊技能として会社で存在感を発揮できた訳です。

また世の中自体も、監督(=上司)の指示通りに動き、攻守がはっきりしている高度成長期の野球型社会から、個々の閃き・判断力が求められ、攻守が瞬時に入れ替る(=名門企業も消える運命あり)サッカー型社会に変わる時代に生きてきた訳で、その意味でもサッカーというスポーツに巡り会えたことは、会社生活を送る上でも良かったとしみじみ感じています。

第二の転機：

当たり前の道を歩まず自分の好きな道へ(医学部→文系への転身)

医者の子息として生まれましたが、医者の子供は医者になるという風潮が嫌いで、別の道で父親を越してみたいと思っていました。もともと旅行好きなこともあり、世界に羽ばたける仕事がしたいと思い、大学受験では文系を志しました。就職先としては、銀行・証券会社の人気が高かった時代に、石油という地味なエネルギー産業を選んだのも、その点が理由ですが、結果的に会社は石油会社としては合併を繰り返す(現在あるENEOS・MOBIL・ESSO・ゼネラルのブランドも来年にはすべてENEOSに統一し、国内のガソリンスタンドの過半数となる予定)、また総合エネルギー企業化を図る時期で、石油に始まり石炭・ガス・電気事業とエネルギー全般の経験を積み、今思えば充実した会社生活を送ることができました。個人的にも、ニューヨークに駐在(故川嶋会長と同時期)でき、オーストラリア(石炭・ガス関係)・マレーシア(ガス)を始めいろんな国に出張し、異文化に触れる数多くの貴重な機会を持ってました。

皆さんもこれからいろんな出会い、人生の転機があると思います。これだけは負けない人と違う強みを持つこと、周りに流されず自分を信じ時には天邪鬼な道を歩むこと、これが悔いのない人生を歩むために必要だと思います。今一流に見えるところも、今当たり前と思えることも、この流れの早いサッカー型社会の今、何が起きるか・何がどうなるか分からないのですから。



青沼隆之 (21回生)

(1982年検事任官、東京地検検事正、次長検事などを経て名古屋高検検事長を最後に退官。2018年2月シテューワ法律事務所弁護士)



陛下の目配せ?!

「平成」も今上天皇退位という予想外の展開で終わろうとしている。役人時代、わずかだが宮中行事参加の機会を得たので幾つか紹介したい。始まりは全国50人の検事正が一同揃っての陛下拝謁。場所は「正殿竹の間」。東京地検検事正が代表としてご挨拶するのだが、これが陛下の正面、その距離目測2歩。暗記での言上が慣例。「極度の緊張から頭が真っ白になって一言も出てこなかった先輩がいたぞ。昔なら切腹ものだな。」などと外野から脅されて臨んだ。言上を終えてほっとしていると、陛下が何と目配せ? あれ! しくじったか。そうだった。私の一礼に続き全員が揃って礼をし、それを合図に陛下からお言葉を賜るのだった。あわてて一礼し事なきを得た。次に、役職上最も重要な宮中参内は、憲法で国事行為と定められている認証式。内閣による検事長などの任命辞令には陛下の御名・御璽がなされ、皇居で認証式が執り行われる。

モーニングを新調して参内すると「千草・千鳥の間」で待機。まず法務大臣が呼ばれて、陛下に任命を「上奏」する。その内容は秘密。この間を利用して認証式の練習。これを「習礼」と言うのだそう。これが終わるとまた待機。かなり待った。式部官に聞くと、陛下は自分で墨を擦られて署名されるので、辞令書が乾くまで時間がかかるとのこと。なるほど、組閣後の会見が夜中になる理由がやっと分かった。分厚い絨毯が敷き詰められた宮殿で、唯一の板の間「正殿松の間」での認証式。陛下から「重責ご苦労に思います。」とのお言葉をいただいた記憶があるが定かではない。何せ、陛下にお尻を向けずに後ずさりする作法など決まり事を守るのに精一杯の有様。最後は、宮中午餐会。法務大臣や検事総長らとともに8高検検事長が昼食に招待された。場所は宮殿「蓮翠」。仏料理のフルコース。上等のワインで良い心持ちになっていたなら、陛下から「名古屋はどうですか」といきなりの御下問。咄嗟に「名古屋城を木造で建て替えるのが巷で話題です。」とお答えすると「何故木造にするの?」と重ねての御下問。「名古屋市長のパフォーマンスでしょう。」と心の中で思ったが、そう答えるわけにもいかず困っていると、検事総長がすかさず「今は、何事も本物志向ですから。」と助け船。正解かはともかく窮地に一生。その外、宮中三殿での皇室祭祀、天皇誕生日や正月の参内、赤坂御苑での園遊会など、振り返ると得がたい経験をさせていただきました。高校時代はいっばしの左翼かぶれだったので、50年近くかけて熟成転向というところか。もうお目にかかる機会もないと思いますが、退位後の平穏な日々を心から祈っております。

定期総会報告

同窓会副会長 **古澤生敏** (15回生)

下記の各議案は平成30年5月27日開催の理事評議員会(於 母校)での審議を経て、平成30年7月29日開催の定期総会(於 西鉄グランドホテル)にて承認されました。

◆平成30年度定期総会

以下の議案が審議、承認されました

1. 平成29年度活動報告

活動報告が中村和徳副会長より行われ、承認された。

2. 平成29年度決算承認の件

古澤副会長より決算説明が行われ、伯川監事より監査報告が行われ、承認された。

3. 平成30年度予算承認の件

古澤副会長より予算説明が行われ、承認された。

4. 会長選考委員会報告及び新会長承認の件

川嶋前会長の急逝を受け、高橋友作会長が任期1年で推薦され、総会で承認された。

5. 副会長承認及び退任

砂場泰治(新)、栗木康幸(新)、岸哲司(新)、中村和徳、吉本幸治の5名が承認された。

古澤生敏副会長、田中利美副会長が退任された。

6. 理事、評議員の承認の件

各支部長からの推薦に基づく名簿が承認された。

◆平成29年度決算・30年度予算に関する補足説明

1. 平成29年度決算

①平成29年度一般会計収支決算書(P.36頁参照)

(収入の部)

- ・広告料収入は、1,031千円と幹事回生の奮闘努力により前期比31千円増加し略予算通り
- ・収入合計は、11,650千円と予算比16千円減少なるも略予算通り
- ・前年卒業の65回生からは終身会費が全納となる為、引き続き終身会費未納者への声掛けが必要

(支出の部)

- ・各項目とも概ね予算内に落ち着くも、ウェブ名簿更新の為、新ソフト導入費用1,134千円発生(予備費で対応)
- ・前年支出の増加した会報費は、コンパクトに纏め、前年比852千円減少し予算内で着着
- ・支出合計は、12,272千円と予算比1,218千円減少し予算内で着着

(当期収支差額ほか)

- ・当期収支差額は623千円の赤字なるも予算内で着着
- ・終身会費過年度分270千円を特別会計に繰出し、次年度繰越金4,095千円

②平成29年度特別会計収支決算書(P.37頁参照)

- ・当年度収入分を一般会計より繰入れた結果、次年度繰越金は前期比323千円増加の179,315千円

2. 平成30年度一般会計収支予算書(P.38頁参照)

(収入の部)

- ・今期予算は、広告料収入を1,500千円とし、前期比536千円増加の12,185千円で策定
- ・今後収入は今期予算の12,000千円前後の見通し

(支出の部)

- ・各支部の一層の活性化を図る為、今年度より支部支援費10千円を30千円に増額
- ・終身会費新制度の導入により、今後は12,000千円前後の収支予算が組める見通しとなり、同窓会活動の一層の充実が望まれる

平成29年度 一般会計収支決算書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(円)

費目	予算額	決算額	差異	備考
〔収入の部〕				
会費(入会金)	844,000	844,000	0	4,000円×211名
会費(年会費)	3,691,500	3,685,500	△ 6,000	500円×613名×12ヶ月 500円×1名×9ヶ月 500円×1名×5ヶ月 前年度分 500円×3ヶ月 △未収入500円×2ヶ月
終身会費新制度分	5,830,400	5,820,800	△ 9,600	800円×613名×12ヶ月 800円×1名×9ヶ月 800円×1名×5ヶ月 前年度分 800円×3ヶ月 △返還800円×95ヶ月(前年度退学者5名分) △未収入800円×2ヶ月
終身会費過年度分	300,000	270,000	△ 30,000	30,000円×9名
広告料収入	1,000,000	1,031,250	31,250	
雑収入	0	586	586	
預り金収入	0	△ 2,600	△ 2,600	過年度会費等過大納入分を返済
当期収入合計	11,665,900	11,649,536	△ 16,364	
〔支出の部〕				
1. 事務費	2,260,000	2,056,747	△ 203,253	
事務消耗品費	10,000	864	△ 9,136	
事務備品費	40,000	0	△ 40,000	
事務委託費	1,200,000	1,200,000	0	事務員給与負担分、久留米大学附設中学校・高等学校後援会へ繰り出し
同窓会本部予備費	200,000	89,096	△ 110,904	
東京事務所費	600,000	600,000	0	東京事務所賃借料
通信費	150,000	124,147	△ 25,853	インターネット利用料 切手・ハガキ他
印刷費	30,000	33,480	3,480	
事務雑費	30,000	9,160	△ 20,840	
2. 事業費	10,230,000	9,081,536	△ 1,148,464	
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	500,000	565,830	65,830	
拡大正副会長会議	300,000	155,043	△ 144,957	
総会関連支援費	400,000	249,810	△ 150,190	
支部総会関連	300,000	528,886	228,886	
後援会との交歓会	30,000	24,000	△ 6,000	
回生世話人会議	600,000	484,520	△ 115,480	
役員活動費	100,000	69,650	△ 30,350	
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	450,000	405,300	△ 44,700	文化祭・体育祭援助
部活援助費	400,000	300,000	△ 100,000	美術部30,000円 サッカー部30,000円 柔道部30,000円 合唱部30,000円 軟式野球部30,000円 演劇部30,000円 剣道部30,000円 テニス部30,000円 バスケット部30,000円 水泳部30,000円 ペーパーウェイト198個
卒業記念品代	350,000	337,867	△ 12,133	
進路指導費	700,000	538,720	△ 161,280	卒業生模擬試験経費援助124,000円 卒業生激励会経費援助414,720円
新人歓迎会補助	150,000	132,880	△ 17,120	
就職セミナー費用	650,000	623,656	△ 26,344	
ESS部海外大会出場費	150,000	41,837	△ 108,163	高校ビジネスグランプリファイナリスト激励会援助41,837円
(同窓会事業費)				
ホームページ管理	1,400,000	1,395,160	△ 4,840	サーバーハウジング費用64,800円 (旧)ウェブ名簿更新とホームページ管理費用982,600円 (新)ホームページ製作・管理費用等347,760円 会報誌(9,500部)の作成代、封筒印刷、発送料を含む
会報	3,500,000	3,073,818	△ 426,182	
思考廻廊関連引当	100,000	100,000	0	
慶弔費	100,000	4,599	△ 95,401	
事業費雑費	50,000	49,960	△ 40	
3. 予備費	1,000,000	1,134,000	134,000	ウェブ名簿「パルサイン」導入料金
当期支出合計	13,490,000	12,272,283	△ 1,217,717	
当期収支差額	△ 1,824,100	△ 622,747	1,201,353	
4. 特別会計へ繰入(繰出)	△ 300,000	△ 270,000	30,000	旧制度終身会費分
前年度繰越金	4,987,672	4,987,672	0	
次年度繰越金	2,863,572	4,094,925	1,231,353	

※29年度末 会費・終身会費未収 2,600円(30年4月12日入金済み)

1年	211名	1月より退学1名
2年	210名	会費なし1名、9月より退学1名
3年	195名	
合計	616名	

財産目録

普通預金(福岡銀行 久留米営業部)	4,093,647円
普通預金(筑邦銀行 本店営業部)	0円
総合口座(ゆうちょ銀行久留米合川郵便局)	0円
定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	2,601,278円(引当金および利息累計)
計	6,694,925円

平成29年度 特別会計収支決算書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

平成29年度決算・30年度予算に関する補足説明

1 平成29年度決算

①平成29年度一般会計収支決算書 (P.36参照)

(収入の部)

- ・ 広告料収入は、1,031千円と幹事回生の奮闘努力により前期比31千円増加し略予算通り
- ・ 収入合計は、11,650千円と予算比16千円減少なるも略予算通り
- ・ 前年卒業の65回生からは終身会費が全納となる為、引き続き終身会費未納者への声掛けが必要

(支出の部)

- ・ 各項目とも概ね予算内に落ち着くも、ウェブ名簿更新の為、新ソフト導入費用1,134千円発生(予備費で対応)
- ・ 前年支出の増加した会報費は、コンパクトに纏め、前年比852千円減少し予算内で落着
- ・ 支出合計は、12,272千円と予算比1,218千円減少し予算内で落着

(当期収支差額ほか)

- ・ 当期収支差額は623千円の赤字なるも予算内で落着
- ・ 終身会費過年度分270千円を特別会計に繰出し、次年度繰越金4,095千円

②平成29年度特別会計収支決算書 (右表参照)

- ・ 当年度収入分を一般会計より繰入れた結果、次年度繰越金は前期比323千円増加の179,315千円

〔収入の部〕 (円)

前年度繰越金	178,991,589
一般会計より繰入	(30,000円×9名) 270,000
雑収入	79,045
計	179,340,634

〔支出の部〕 (円)

貸金庫使用料	25,920
次年度繰越金	179,314,714
計	179,340,634

財産目録

普通預金(筑邦銀行本店営業部)	3,329,449円
定期預金(筑邦銀行本店営業部)	155,968,811円
定期預金(福岡銀行久留米営業部)	20,016,454円
計	179,314,714円

終身会費納入状況

回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率
1	60	101名 59%	17	59	195名 30%	33	177	209名 85%	49	152	201名 76%
2	80	141名 57%	18	59	195名 30%	34	185	217名 85%	50	134	200名 67%
3	67	135名 50%	19	74 (1)	205名 36%	35	158	209名 76%	51	157	202名 78%
4	74	153名 48%	20	54	209名 26%	36	175	209名 84%	52	145	203名 71%
5	63	159名 40%	21	74	211名 35%	37	158	199名 79%	53	163	199名 82%
6	65	159名 41%	22	78 (1)	229名 34%	38	154	210名 73%	54	147	204名 72%
7	93	162名 57%	23	62	183名 34%	39	166	202名 82%	55	136	197名 69%
8	84	171名 49%	24	72	214名 34%	40	123	201名 61%	56	139	205名 68%
9	61	149名 41%	25	94 (2)	220名 43%	41	87	205名 42%	57	143	199名 72%
10	76	150名 51%	26	165	223名 74%	42	105	206名 51%	58	147	198名 74%
11	63	159名 40%	27	156	201名 78%	43	109	208名 52%	59	149	210名 71%
12	59	154名 38%	28	172	217名 79%	44	117	197名 59%	60	131	199名 66%
13	74	165名 45%	29	160 (1)	215名 74%	45	132	194名 68%	61	152	201名 76%
14	54	145名 37%	30	176	212名 83%	46	128	195名 66%	62	139 (1)	203名 68%
15	52 (1)	161名 32%	31	159	217名 73%	47	119	194名 61%	63	139 (2)	199名 70%
16	58	208名 28%	32	174	224名 78%	48	135	197名 69%	64	132	200名 66%

2 平成30年度一般会計収支予算書 (P.38参照)

2018年3月31日現在

(収入の部)

- ・ 今期予算は、広告料収入を1,500千円とし、前期比536千円増加の12,185千円で策定
- ・ 今後収入は今期予算の12,000千円前後の見通し

(支出の部)

- ・ 各支部の一層の活性化を図る為、今年度より支部支援費10千円を30千円に増額
- ・ 終身会費新制度の導入により、今後は12,000千円前後の収支予算が組める見通しとなり、同窓会活動の一層の充実が望まれる

同窓会終身会費 会計報告

完納会員 (3万円)	7,342 (9) 名
分納会員 (2万円)	10 (0) 名
(1万円)	52 (0) 名

平成30年度 一般会計収支予算書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(円)

費 目	前年度決算	当年度予算	差 額	備 考
〔収入の部〕				
会 費 (入 会 金)	844,000	824,000	△ 20,000	4,000円×206名
会 費 (年 会 費)	3,685,500	3,715,000	29,500	500円×619名×12ヶ月+1,000円
終身会費新制度分	5,820,800	5,846,400	25,600	800円×619名×12ヶ月+800円×2名-800名×122ヶ月
終身会費過年度分	270,000	300,000	30,000	
広 告 料 収 入	1,031,250	1,500,000	468,750	
寄 付 金	0	0	0	
雑 収 入	586	0	△ 586	
預 り 金 収 入	△ 2,600	0	2,600	
当 期 収 入 合 計	11,649,536	12,185,400	535,864	
〔支出の部〕				
1. 事務費	2,056,747	2,200,000	143,253	
事 務 消 耗 品	864	10,000	9,136	
事 務 備 品 費	0	40,000	40,000	
事 務 委 託 費	1,200,000	1,200,000	0	事務員給与負担
同窓会本部予備費	89,096	150,000	60,904	
東 京 事 務 所 費	600,000	600,000	0	東京事務所賃借費
通 信 費	124,147	150,000	25,853	インターネット利用料、切手・ハガキ等
印 刷 費	33,480	40,000	6,520	名刺等
事 務 雑 費	9,160	10,000	840	
2. 事業費	9,081,536	9,560,000	478,464	
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	565,830	600,000	34,170	旅費、食事代
正副会長会議	155,043	150,000	△ 5,043	旅費等
総会関連支援費	249,810	300,000	50,190	総会予備費、講師旅費
支部総会関連	528,886	500,000	△ 28,886	旅費等
		240,000	240,000	支部支援 30,000円×8支部
後援会との交歓会	24,000	30,000	6,000	懇親会
回生世話人会議	484,520	500,000	15,480	
役員活動費	69,650	100,000	30,350	
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	405,300	450,000	44,700	体育祭、文化祭
部活援助費	300,000	390,000	90,000	30,000円×13部活
卒業記念品代	337,867	350,000	12,133	ペーパーウェイト
進路指導費	538,720	600,000	61,280	浪人生向け模試、激励会
新人歓迎会補助	132,880	150,000	17,120	
就職セミナー費用	623,656	650,000	26,344	
ESS部海外大会出場費等	41,837	100,000	58,163	
(同窓会事業費)				
ホームページ管理	1,395,160	1,000,000	△ 395,160	77,760円×12ヶ月+64,800円=997,920円
会 報	3,073,818	3,200,000	126,182	印刷費、発送費
思考廻廊関連引当	100,000	100,000	0	
慶 弔 費	4,599	100,000	95,401	
事業費雑費	49,960	50,000	40	
3. 予備費	1,134,000	1,000,000	△ 134,000	
当 期 支 出 合 計	12,272,283	12,760,000	487,717	
当 期 収 支 差 額	△ 622,747	△ 574,600	48,147	
4. 特別会計へ繰入(繰出)	△ 270,000	△ 300,000	△ 30,000	旧制度終身会費分
前 年 度 繰 越 金	4,987,672	4,094,925	△ 892,747	
次 年 度 繰 越 金	4,094,925	3,220,325	△ 874,600	

久留米大学附設高等学校同窓会 平成30年度役員名簿

役職名	支部名	回生	氏名
顧問	福岡	8回生	井手和英
	東京	8	渡辺望稔
	福岡	10	古賀暉人
	福岡	13	長谷川房生

会長			
	東京	19	高橋友作

副会長			
	東京	21回生	砂場泰浩
	東京	21	栗木康幸
	福岡	22	岸哲司
	東京	27	中村和徳
	福岡	28	吉本幸治

理事 (23名)			
	山口	10回生	原好弘
	佐賀	17	三根茂
	中四国	16	近藤治幸
	東京	19	小田恵介
	福岡	19	天本敬吾
	大分	19	藤原公司郎
	北海道	20	檀浦龍二郎
	福岡	20	橋本和幸
	東京	20	安部政信
	中部	21	石井三記
	関西	21	甲斐田郁夫
	福岡	22	松雪恵津男
	東京	22	中村尚昭
	東京	23	吉田清隆
	福岡	23	古賀善彦
	東京	26	牛嶋啓二
	福岡	26	実藤光二郎
	東京	28	高木裕康
	熊本	30	江頭有朋
	長崎	33	本村克明
	福岡	34	秋本丈司
	校内	41	坂田真一
	校内	45	阿部健太郎

監事			
	福岡	13回生	一瀬徹夫
	福岡	15	伯川志郎

支部長			
	山口	10回生	原好弘
	熊本	14	寺嶋隆則
	佐賀	17	三根茂
	中四国	19	今田忠則
	東京	19	小田恵介
	大分	19	藤原公司郎
	北海道	20	檀浦龍二郎
	中部	21	石井三記
	関西	21	甲斐田郁夫
	長崎	24	碓秀樹
	福岡	26	実藤光二郎

役職名	支部名	回生	氏名
-----	-----	----	----

評議員 (57名)	福岡	1	隈正之輔
	福岡	3	安恒好太郎
	福岡	4	丸林茂夫
	福岡	8	中村晃
	福岡	11	重永征廣
	福岡	13	宮本祐一
	東京	14	久保田徹
	福岡	15	平田三郎
	福岡	16	中野博行
	山口	16	小野康行
	熊本	16	川崎博
	福岡	17	武田由照
	福岡	18	村岡和彦
	佐賀	18	太田勘
	福岡	19	横山晴明
	東京	20	山下喜弘
	関西	20	山本伸一
	北海道	20	西見寿博
	福岡	21	小林隆利
	福岡	21	林公彦
	関西	21	横山俊祐
	福岡	22	山口博徳
	福岡	23	江藤宏
	東京	23	吉田清隆
	福岡	24	下川敏弘
	福岡	25	宮原信孝
	福岡	25	川口武壽
	福岡	26	藤田幸也
	福岡	27	執行謙二
	福岡	27	佐々木郁夫
	福岡	28	岡村和彦
	中四国	28	田代聡
	福岡	29	木下宏太郎
	東京	29	日高雄三郎
	福岡	30	尾籠博光
	福岡	31	森田昇
	長崎	32	山縣雅義
	福岡	34	永田八栄
	中部	35	平田克弘
	東京	35	高尾野健
	東京	39	福山泰平
	福岡	39	古賀篤
	福岡	41	川野武志
	福岡	42	楠田大蔵
	東京	43	深野章
	福岡	45	橋本道成
	中四国	45	関太一
	東京	47	浅枝謙太
	東京	47	中嶋雅宏
	東京	50	山口雅彦
	東京	51	大津良太
	東京	51	福島智史
	東京	57	竹下知宏
	東京	59	尾家杏奈
	東京	60	柴田里子
	関西	61	佐伯洋輔
	関西	64	廣田律

(敬称略)

回生代表世話人

福岡支部回生代表世話人

回生	氏名
1	
2	石橋義昭 中村幸孝
3	安恒好太郎 中場清和
4	日野俊二 大村和正
5	関順治 高木俊夫
6	野田尚一 小吹学
7	松本保正 柿原大督 鶴史雄
8	近藤英喜 木下兼吉
9	城戸明
10	橋本克己 重永征廣
11	今里哲也 梅野正裕
12	大塚清 小江俊行
13	荒尾誠也 上古修一
14	大福井英二 古澤生敏
15	中河原哲朗 箱田啓樹
16	赤司和彦 福山明
17	村岡和彦
18	横山晴明 山口浩生
19	橋本幸史 武藤邦弘
20	一ノ瀬元 藤島光
21	古田司 松雪惠津男
22	古賀善彦 大野康
23	下川敏弘
24	山口佳秀 矢加部浩一
25	実藤光二郎 吉岸智也
26	佐々木郁夫 高村和彦
27	江頭修作 岡崎政敏
28	猪飼秀隆 箱崎尚敏
29	佐藤茂 古村下政
30	森田昇 竹東政晃
31	坂田敬
32	枝國源一郎 渡邊曉栄
33	秋本丈司 永田八栄
34	津福一宏
35	真崎義憲
36	平野長憲 嗣
37	富田憲嗣
38	時津高俊 藤野恭誠
39	兼行孝幸 古賀哲明
40	川野武志 富永泰輔
41	中島研楠 田大蔵
42	陣内幸史 池田昌太
43	本江嘉将 花吉哲芝
44	岡本慎太郎 橋本道成
45	出納正樹
46	熊谷善昭 小原尚利
47	北島皓興 山口剛弘
48	森山裕司
49	熊丸陽亮
50	植高貴寛
51	千代田明久 池辺健太
52	佐藤孝志
53	橋本智之 宮原敏
54	井上朝雄
55	大澤めぐみ 嶋田寛之
56	足達咲希 中島孝輔
57	山下華代 渡邊翔太郎 布花原麻貴
58	
59	
60	二宮彬 村上龍之介
61	
62	笹栗誠 田中雄士
63	
64	
65	
66	富重紀貴

東京支部回生代表世話人

回生	氏名
1	
2	一郡透 加藤勝文
3	野田隆昭
4	佐々木進 柳昌憲
5	山口厚三 塚本忠敬
6	山内盛光 鹿毛剛
7	大石弘利 武藤正之
8	渡辺望稔 井樋克東
9	戸澤真也 星佐之
10	稲田昌秀 佐伯信雄
11	橋本雄二 小嶺敏郎
12	林章
13	阿志賀雄二 榊山寿夫
14	久保田徹
15	楠田宙生
16	
17	安永裕相 中本祥一
18	宮本博幸 藏守俊昭
19	高橋友作 國友秀世
20	安部政信 太田篤茂
21	砂場泰浩 大隈史
22	中村尚昭 新野篤美
23	吉田清隆 吉田繁力
24	田中賢司 齊藤一稔
25	中島崇博 田中浩
26	古上羅宏 古田川幸稔
27	高木裕康 堀元隆司
28	日高雄三 大智之
29	坂本格 唐澤達信
30	大村和範 北島誠也
31	佐藤正一 内山修造 末永和之
32	吉開章勝 勝連治 木内大
33	阿部高士 工藤宏記 田中昭彦
34	高尾野健 小宮山郁太郎
35	真栄城正 堀達也
36	松本義久 洞幸司
37	植木正光 鶴野登志博
38	古門成年 福山泰平
39	加藤寛児 玉雄介
40	白木淳二
41	見満周宣 清田陽司
42	山口桂右 深野章
43	
44	
45	中村雄一郎
46	伊藤周 宮田知明
47	浅枝謙太 光成洋二 中嶋雅宏
48	吉岡宏起 泉建太郎 平川翔
49	平進之介 牟田秀俊
50	山口雅彦
51	大津良太 行時直也
52	喜多村健人
53	大神征爾 梅井正彦
54	椿聡一郎 田邊裕貴
55	五十嵐丈鑑 山本航平
56	安丸佑平 光安麻理恵
57	宮尾采佳 石田大典
58	中島英恵 廣兼佑亮
59	尾家杏奈 東峻太 平山いづみ
60	井手俊晴 三原裕介 畔柳駿一
61	江崎隆一郎 山本舜介 與島仙太郎
62	坂口華奈子 川野秀太郎
63	上田弦 富永勇貴
64	古川敦大
65	平松昂白 地立
66	石川惣一朗

福岡支部職域代表世話人

- 福岡市役所
- 33回生 本村和也
- 九州電力
- 37回生 平野長暁
- 西日本鉄道
- 36回生 上野潔
- 福岡県庁
- 38回生 豊村謙治
- 福岡銀行
- 45回生 小澄洋光

東京支部職域代表世話人

- 霞が関英蓉会
- 21回生 青沼隆之

ホームページが新しくなりました

副会長・広報委員会委員長 **中村和徳** (27回生)

Point

- すっきり、シンプル、スピーディに
- スマホ版できました
- ホームページアップ用のフォーマットをつくりました
- 運営窓口は同窓会事務局 (メディア総研東京事務所) (窓口: 長野さん)

新ホームページはこちら➡ <http://fusetu.sakura.ne.jp/>



次頁より、新しくなったWeb名簿をご紹介します!

新Web名簿の入力項目

◎必須項目 ■編集不可 □編集可・開示非開示選択可

- | | | | |
|-----------------|---------------|---------------|---------------|
| ◎ 姓名 | ◎ 生年月日 | ■ 会員番号 | ■ 終身会費 |
| □ 現住所 | □ 電話 | □ メール(3つまで可) | □ 携帯 |
| □ その他連絡先(2つまで可) | | □ 勤務先 | □ 現職/旧職 |
| ■ 学籍情報 | □ 卒業年次・回生 | □ 最終学歴 | |
| □ クラブ・サークル | | | |
| □ 自己紹介 | □ メッセージ | □ メモ | |

WEB名簿が新しくなりました(新名簿管理スタート)

同窓会ホームページ (→<http://fusetsu.sakura.ne.jp/>) から



へ。

ご利用の手引き

(次頁)をご参照下さい

主なポイント

「住所などの変更連絡 WEB名簿」にアクセス

- ①メールアドレス ②生年月日 (本人確認のため) を入力します
メールアドレスがない方は同窓会事務局へ (電話、FAXなど)

まずは、HPにアクセスして、ご自身の内容をご確認下さい

内容はこれまで同窓会事務局で把握している情報ですが、古い情報だったり誤った情報である場合もございますので、**早めの確認・修正をお願いします。**

ユーザーID、パスワードを入力 (同窓会報送付状に記載しています。)

- ユーザーID：卒業番号 (数字5桁) **ex. 12345**
- パスワード：従来のPWの最初にfstを加えた8桁 (数字5桁の前にfstをつけてください) **ex. fst23456**
ご不明の方は、HP右下の「お問い合わせ」よりお問い合わせ下さい。

自分の情報は、自分自身で管理 (前頁ご参照)

- 入力情報の開示は3種類 (全開示開示、同期のみ開示、非開示)項目ごとに可
- 住所も複数入力可 (送付先選択可)

「検索機能」が充実しました

卒業年次や氏名、住所、勤務先などで検索が可能です。本人が開示可とされている情報しか見られませんので、できるだけ「開示可」へ切り替えていただくようお願いいたします。

運営窓口は、同窓会事務局 (久留米) (窓口：中村昌子さん)



会報送付時の宛名用紙にログインIDとパスワードを記載していますので、ご確認ください。

孫ができました!



Web名簿はこちら↓
<https://pu.palsyne.net/s-fusetsu/>

同窓会ホームページの「ご利用の手引き」です

同窓会WEB名簿ご利用の手引き

同窓会ホームページとWEB名簿がリニューアルされました!

IDおよび初期パスワードのお知らせ

同窓会WEB名簿にアクセスして、以下のID・パスワードでログインして下さい。
ログイン後、現在登録されている情報をご確認いただき、必要な変更を行うことが出来ます。

ログインID：旧ログインIDと同じ
パスワード：旧初期パスワードの最初に「fst」を加えた8文字

※以前のWEB名簿でパスワードを変更された方も初期パスワードに戻っております。
※ログインID、パスワードがご不明な方は「お問い合わせ」メールフォームからご連絡ください。

1 ホームページのWEB名簿ボタンをクリックして下さい。



クリック!!

4 ご自身の登録情報の確認と変更開示の可否はご自身でお決めください。



2 「会員ID／パスワード」を入力後、ログインをクリックしてください。

初回ログイン時には、メールアドレスと生年月日の登録が必要になります。

- ✓ メールアドレスと生年月日を入力された後、すぐに確認メールが届きますのでご確認ください。
- ✓ ログイン後、会員ID／パスワードは自由に変更できます。
- ✓ 万一、変更したパスワードを忘れてしまった場合は、登録済のメールアドレスと生年月日で即時に再発行を受けることができます。
- ✓ セキュリティはシステム管理者にて十分に守られますが、各会員におかれましても、ご自身のID／パスワードは確実に保管していただきますようお願いいたします。

- 住所、勤務先などの情報はご自身でご変更いただけますようお願いいたします。
- 登録情報をどの範囲の会員に開示して良いかは、ご自分で設定してください。「全同窓生に公開」「同期のみに公開」「非開示」の設定ができます。

3 会員専用サイトでは主に以下のような機能があります。

- ✓ ご自身の登録情報の確認と変更
- ✓ 同窓生の検索・閲覧 (WEB版同窓会名簿)
同窓生の情報のうち、開示されたものを検索・閲覧することができます。

5 WEB版同窓会名簿の閲覧

卒業年・期数、氏名、住所、勤務先、利用しているSNSを検索し、本人が開示した情報を閲覧できます。



メールアドレスをお持ちでない方は、FAXやお電話で代理入力しますので同窓会事務局までご連絡下さい。

TEL:0942-44-2222 / FAX:0942-44-8257



大津良太 (51回生)

株式会社電通勤務（人事部門→営業部門）を経て、現在ブルデンシャル生命保険（相続・事業承継対策、法人・個人保険）勤務。

第22回就職セミナーは 新たな試みもスタート

第22回就職セミナー（2月・4月）において、2019年度入社内定を目指す学生を中心に、多数の大学生、大学院生へ就職支援を行いました。

また、企業への就職支援のみならず、「官公庁か、民間か」「進学すべきか、就職すべきか」など、個々の悩みに対し、お集まりいただいた多種多様な社会人、内定者の先輩からアドバイスをを行いました。

就職セミナーはここ数年、附設のOB・OGが後輩たちへクローズドだからできる「ぶっちゃけトーク」も含めたアドバイスを行ってきました。

例年アットホームであるからこそ本音で語れる会として非常に充実していましたが、その反面、特に複数回参加している学生にとっては少し緊張感に欠けるような雰囲気になることもありました。

そこで、本年は新たな試みとして、OB・OGではない附設ファミリーの講師2名をお招きしセミナーを実施しました。

大手企業で勤務を経て、自身で会社を立ち上げられた川嶋 弘文さん(19回生 川嶋さんご子息)、附設ファミリーとして学生時代に就職セミナーに参加し、現在ベンチャー企業で活躍中の牛嶋 洋之さん(26回生 牛嶋さんご子息)からの講演やアドバイスは、参加学生にとって非常に有意義な内容でした。

ここ数年、採用スケジュールや方針などが目まぐるしく変化しております。

毎年のトレンドをしっかりと把握しつつ、普遍的な部分も伝えられるセミナーを今後も実施していく予定です。

経験豊富な先輩方の講師としてのご参加、そしてやる気に満ち溢れた学生諸君の参加を心待ちにしております。



2018年2月24日 学士会館（東京・神田）

2018年度新人歓迎会

幹事の白地くん、平松くんの尽力もあり、
とても良い会になりました。

大津良太 (51回生)



日 時：2018年6月8日(金)19時半～22時

場 所：五反田駅 とりいち

参加数：65回生・66回生・同窓会役員、合計55名

新人歓迎会は、例年6月ごろ、上京したての学生同士の懇親、東京支部・同窓会からの情報発信（支部総会、就職セミナーなどの告知）などを目的とし、前年に歓迎された側である「大学二年生」に幹事をお願いし開催しております。

今年の新入生は平成11年（1999年）生まれ。

王監督率いる福岡ダイエーホークスが26年ぶりのリーグ優勝に輝いた年です。

余談ですが、優勝を決めた9月25日は定期試験前だったにも関わらず、ソラリアビジョンのパブリックビューイングで試合を観戦していた私は、スポーツ紙やローカルニュースに多数映り込んだ結果、翌朝（日曜日）、担任の佐々木先生からお電話を頂きお叱りを受けてしまいました……これも今や良い思い出です。

そんな年に生まれた新人たちの歓迎会は、川嶋会長の乾杯のご発声でスタートし、懇親を行った後、支部総会幹事の高尾野さんからのアナウンス、学生諸君のユニークな自己紹介と続き、小田支部長の万歳三唱で締めくくるまで、終始和気あいあいとした会でした。

昨年歓迎を受けた学生たちが少し大人になった姿で後輩を歓迎する様子を見て1年という時間の流れを感じることでできる1日となりました。





久留米大学附設
中学校 47回生
高等学校 68回生

宮尾 采佳 先生 (社会システム株式会社)

10月21日 第1講座

建設コンサルタントとは？

講座のまとめ

◆略歴

附設高校57回生→筑波大学→東京工業大学大学院

◆趣味

- ・旅行
- ・音楽を聴くこと
- ・バドミントン
- ・美味しいお店探し

◆なぜ建設コンサルトになったのか

建設業界のイメージ

3K = きつい、汚い、危険

最近では6K (=きつい、汚い、危険、帰れない、かっこ悪い、給料が安い)

➔ マイナスな印象

しかし、「まちづくり」に関わりたいという強い思いと文理問わず様々な人が関わって「まちづくり」をしていることに魅了され志した

◆会社の仕事内容

社会システム株式会社：

- ・特定のものの技術を提案するコンサルタントやコンピューターシステム開発をする会社
- ・国土交通省からの仕事の依頼が一番多い
- ・若い時から国や自治体などの業務を請け負うことが出来る
- ・業務を毎年受注し、8名前後のグループを組んで仕事を行う

講座の感想

建設コンサルタントの方のお話を聞きました。私はずっと建設コンサルタントは建築士のように設計するのかと思っていたら違って少し驚きました。企画、立案、調査などをして提案する仕事で、いろいろな事業的内容も紹介していただいているいろいろな計画、調査があって面白いな、興味深いなと思いました。国や事業

建設コンサルタントという仕事をはじめて知った。話している宮尾さんは、自分がやっている仕事がとても楽しそうだった。スケールの大きい国の政策という業務に携わりインフラを整備することで人のためになるというのはすごく魅力的だった。とくに宮尾先生は



- ・研修は2か月ほどある

宮尾さんは1年目に8プロジェクト、2年目に10プロジェクト同時に進めている

◆プロジェクトの紹介

【田園都市線「バスも！キャンペーン」】

- ・乗車率180%の田園都市線の混雑緩和を目的にしたもの
- ・11月1日～3月31日までの平日101日間の早朝に調査を行った

➔ 結果として0.01%の混雑が緩和された

また宮尾先生自身は体力、精神力が鍛えられかつ監督者としての視点が得られたようだ

◆最後に

決断の際にやりたいことと実力のギャップを感じることもある

よって、なりたいたいものではなく、やりたいことをすべき。決断は早い方が良い

にアイデアを提供するなど、コンサルタントという職業は名前こそ聞いたことはありましたが、そのような仕事内容だとは全然知らなかったのでお話を聞くことができてよかったです。

文責：高1 B 30番 藤井祐里

初め医者になりたかったが都市計画をすることで町の医者として自分の夢をかなえたいと思っているところがすごく心に残った。すごく参考になりました。

文責：高1 E 17番 下野舞花

高木 裕康

先生（東京丸の内法律事務所 弁護士）

夢だった弁護士の仕事とその醍醐味

講座のまとめ

◆講師の先生の自己紹介

【略歴】

- 久留米市筑邦西中学校
 - ➔ 久留米大学附設高等学校
 - ➔ 1年浪人
 - ➔ 東京大学法学部
 - ➔ 東京丸の内法律事務所（弁護士）
- 弁護士という仕事に就いて30年目になる

【仕事内容】

- 依頼は国内・国際から様々
- 個人からの依頼より会社からの依頼の方が多い
- 会社の顧問弁護士
- 社外取締役
（会社の重役が内部の人間ばかりだと違法行為が公にならないことがあるため、会社外部の弁護士を入れている）
- ロースクールでの指導 など

【弁護士を目指したきっかけ】

- 中学生の頃に読んだ推理小説に弁護士が登場し、憧れを抱いた
- 本物の弁護士を見たことはなかった
- 高校時代は数学・理科が得意で研究者になろうと考えたが、自分がその職に就いているイメージが湧かなかつたためずっと憧れていた弁護士の夢を追いかけて文系を選択
- 東京大学文科一類を受験するが不合格……
- 中学時代・高校時代はどちらかというと真面目な方で優等生だったため、大学受験で人生初の大きな失敗を経験
 - ➔ この経験で「自分には何が足りなかったのか？」と一歩立ち止って考える。苦手だった日本史・世界史の試験では、知識ではなく時代背景に隠された流れが問われているということなど、受験期には気付かなかつたことにたくさん気付くことができた。これが人生の転機！ のちの就職時にも大いに役立った！
- 一浪後、東京大学文科一類に合格！



【弁護士になるまで】

- 高校時代は部活禁止だったが、大学で体操部に入部
- 大学3年生になり本格的に弁護士の勉強を始める
- このとき、大学受験での失敗の経験が役立つ
（試験では何を必要とするのか考えながら勉強する）
 - ➔ 大学5年生時に合格！ついに憧れの弁護士に！

◆具体的に取扱った事件内容

【ケース1 結婚式披露宴会場にて】

- 結婚式の披露宴が終わった後、参列者の八割近くがノロウイルスにかかる
- 式場に保健所からの検査が入った結果、式場のスタッフ2名がノロウイルスに感染していたことが発覚
- 式場は新郎新婦に謝罪し、式の費用を無料にすることを提案する
- しかし新郎新婦側は納得せず、損害賠償を要求
 - ➔ そこで高木先生に依頼！ どうすれば損害賠償の請求ができるのか？
- 高木先生が調査を行うにあたり、
 - A 式場は衛生には非常に気をつけており、スタッフは毎日検温・手洗いを徹底していた
 - B ノロウイルスに感染していたスタッフが同じ日に担当していた別の披露宴ではノロウイルス患者は出なかった
 - C 参列者でノロウイルスにかかった人のうち、披露宴が原因ではない可能性がある人が数名いたというA・B・Cの3つが明らかになり、式場だけがノロウイルスの感染源ではない可能性が浮上
 - ➔ 裁判になっても損害賠償の請求は難しい
- そこで高木先生は新郎新婦にこの趣旨を説明し、新郎側も納得、式場が料金を半額にすることで解決した

【ケース2 企業の再建】

- 家具屋・ホームセンター・スーパーを経営する会社が、家具屋以外の経営がうまくいかず倒産の危機
- 長年の赤字・多額の借金を抱えているも創業100年という老舗だったため、経営者は何としてでも店を続けたい
 - ➔ そこで高木先生に依頼！どうすれば会社を続けることができるのか？
- 高木先生の案
 - A 赤字の原因となっているホームセンター・スーパーの営業を中止し家具屋の営業だけにする
 - B 借金の負債額を今までの20%に減らし、その金額を10年で返す
 以上の計画を関係者の過半数が賛成すると認められる
 - ➔ しかし、いきなり借金踏み倒しの計画など普通は賛成されない！
- そこでこの会社が倒産してしまった場合のデメリットを提示

(例)

 - 借金が20%どころか1円も払えなくなる
 - 今まで家具を仕入れていた家具屋の利益が減る
 - 職を失う社員が利用している銀行の利益も減る
 - ➔ このように条件を提示することで、やっと過半数の賛成を得る

- この会社は倒産を免れた！
- 今も提示した条件を守って経営しており、現在は借金返済9年目

◆高木先生の考える“弁護士”とは

- 世間の多くの人を抱えている「弁護士」のイメージは、主に刑事裁判を扱う弁護士のことで、民事裁判を取り扱う弁護士のことはあまりよくは知られていない
- しかしTVやネットなど偏ったメディアの報道により、弁護士の仕事は有罪の人を無罪にすることだと誤解している人もいる
- 被告人は有罪であるという先入観があると、被告人が言いたいことをはっきり言うことができなくなり、公平な裁判ができない可能性もある
 - ➔ そこで！ 被告人の言いたいことを代弁するのが弁護士の仕事！
- 被告人の主張を代わりに提示することで、裁判官が検察と被告の双方から十分な意見をもらい、より正しい判決をする
- 人によって価値観は様々であるため、弁護士の仕事は個人の裁量によって決まり、絶対的な正誤は存在しない
- 依頼内容は様々で非常に難しいものもあるが、事件解決後に依頼者から感謝されることは言葉で表せないほど嬉しいものである

講座の感想

元々夢だった弁護士だったが、今回の講座を通してさらになりたいという思いがよくなった。物事を筋道立てて考える力と問題点を正確に把握する能力が求められているようだった。先生が提示されていた事件

の具体例も、うまく解決した時の感動、達成感のほかの職業とは比べ物にならないほど大きいのだろうと容易に想像することができた。とても感動的な講座だった。
 文責：高1 A4番 伊藤俊介

企業法務といわれてもまったく想像がつかなかったが、ひとつケースを紹介していただいて、弁護士が人を説得することを主眼におく職業なのだと確信できた。人に説く業務はすごく魅力的だと感じた。依頼者の意向に応じて解決策を考えるというのは楽しそうだし、やりがいもありそうだ。

文責：高1 E 28番 福嶋恒樹



平成29年度

進路講座 講師・題目一覧

不真面目だった私が社会人になって考えること

藪内 友紀 先生
(アクセンチュア株式会社)

Get out of your comfort zone

藤木 愛 先生
(外資系投資銀行)

身近な社会基盤のこと

～あたりまえに使っているもの～

北島 久 先生
(㈱オービット 設計部技師長)

「君は医学部に行って何を学ぶのか、為すのか？」

基礎医学者の勝手な眩き。

廣松 賢治 先生
(福岡大学医学部 微生物免疫学)

医者とは

中根 博 先生
(国立病院福岡東医療センター 副院長)

I Tの仕事と進路選択の考え方

執行 可愛 先生
(日本電気株式会社 (NEC) ものづくり統括本部)

企業で働くということ：会社と個人

徳永 康久 先生
(ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ㈱ Felica事業部 事業戦略部 統括部長)

検察官とは

江藤 靖典 先生
(日野総合法律事務所 弁護士)

地方創生とは何か？

緒方 和広 先生
(福岡県総務部財務課 参事補佐)

大学教員の仕事と目指し方

池田 徹 先生
(鹿児島大学 理工学研究科 機械工学専攻 教授)

腎臓内科という専門を選んで

東 治道 先生
(社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院 副院長・腎臓内科)

環境活動でも意識する経営メリット

古賀 章浩 先生
(東芝メディカルシステムズ 技術企画グループ長)

制作

進路講座委員会

委員長

C組 鎌田 悠嗣

副委員長

C組 新田 桃子 D組 西 森まい

報告書作成

D組 西 森まい

報告書表紙

C組 平田 奈々子

委員

A組

高宮 匠 中山 雅弘

B組

立神 海渡 田中 理穂

C組

古賀 睦人 関 理一郎

平田 奈々子 増野 湧斗 吉浦 遼太

D組

井本 那尚

E組

伊藤 想也 福田 翔平

顧問

轟 壽男 山口 利依



西本 鞠那

(高校60回生)

福岡大学医学部医学科4年

福岡大学の学生生活について

附設高校60回生、福岡大学医学部医学科4年の西本鞠那と申します。

附設には高校が共学になって5年目に入学しました。現在は中学から女子も入れるようになったと伺っていますが、当時食堂などで見かけていた附設男子中学生を思い出すと、校内の様子が想像もつきません。高校では女子の数が圧倒的に少なく、周りの大勢の男子に影響されて、今思い返すと女子の誰一人としておしとやかで清楚な子はいなかったように感じます。(笑)

さて本題ですが、福岡大学は地下鉄の駅に隣接しており立地はかなり良いです。聞いた話では、全国の医学部の中で唯一空港から雨に当たらずに教室までたどり着ける大学だそうです。その好立地を存分に活かして、学校帰りにはよく天神や博多に繰り出しています。

大学生活は、高校では帰宅部のくせに下位〇〇番をさまよっていた私ですが今はなんとバレーボール部と勉学の両立に励む日々で、長期休暇には友人とよく旅行に出かけたりしています。また、年に2度のレディコン(学年問わず女子の女子による女子のための会)や在校生もドレスアップをする謝恩会など、福大ならではのイベントが多数あって、学業で忙しい中でもエンジョイしています。

さらに年に1度、「附設会」という附設出身で福大関係のOBOGが集まる会があります。1年生から50、60代の先生まで集まるのですが、附設から福大に進学する女子は私が初めてで先輩は男子しかいないので、新入生の時はとっても緊張しました…(笑) 毎年新入生の名簿を見ては「今年は附設女子いるかな? …またいない…」の繰り返しです。附設にいれば大多数が国立医学部や東大、京大などを狙うのは重々承知ですが、もしも進路に迷った方がいれば、最終候補でも福大を視野に入れてほしいです(笑)「腐っても医学部」です。



今年で附設を卒業して7年になりますが、今でも同級生とはたまに会っています。再会するといつも附設生の謎の心地よさに懐かしさを覚え、先に医師や社会人になった同級生から刺激をたくさん受けます。卒業生は皆さん感じていると思いますが、附設時代の友人は一生の財産です。これからもこのつながりは大事にし続けようと思っています。拙い文章ではありますが、寄稿を終えさせていただきます。





宮平和人

(高校61回生、中学39回生)

中学39回生、高校61回生の宮平和人と申します。同窓会報には2015年に「香港便り」を寄稿させていただいて以来、2度目の投稿となります。このような栄誉ある機会を2度も与えていただき、心より感謝いたします。今回は英国ロンドンでの研究生生活に関して簡潔に紹介させていただきます。

本題に移る前に私の簡単な自己紹介をさせていただくと、私は附設高校を2013年3月に卒業後京都大学の総合人間学部に進学し、在学4年間の内約1年半を香港大学にて交換留学生として過ごしました。前述の「香港便り」はその当時の記録です。京都大学卒業後は半年のギャップタームを経て2017年9月より英国ロンドン、London School of Economics and Political Science (LSE) の修士課程に所属しております(2018年9月に修了予定)。



図書館



New Academic Buildingのテラスから
(建設現場はLSEの建物)

London School of Economics and Political Science(LSE)

修士課程留学記録

【LSEとLSEでのリサーチについて】

LSEは1895年に設立された社会科学にフォーカスした教育、研究機関で、ロンドンの中心部Holbornに位置し、学部生約5,000人、大学院生約6,000人、教員約1,500人が所属しております。学生は約70%が留学生であると言われており、人種の坩堝であるロンドンにおいても際立ったグローバル環境です。卒業生はガバメント、シティ(金融)、アカデミア各界で活躍しており、日本でも著名な人物ならば現台湾総統の蔡英文や『21世紀の資本論』のトマ・ピケティなどが挙げられます。また卒業生や教職員のノーベル賞受賞者数は19名となっており、その内13名は経済学賞の受賞者です。最新のQS World University Rankingsでは統計学、国際政治学、地理学、政策学などでTOP5に入っている他、経済学や私が専攻している史学でも7位にランクインしております。

私自身はDepartment of International HistoryのMSc in Empires, Colonialism and Globalisationというコースに属しております。これは所謂 taught master's と呼ばれる単年の修士課程で、通常のコースワークに加え試験及び修士論文(英文10,000 words)を1年間かけて行うものです。修士論文は1890年代前半の日英条約改正交渉史について執筆しており、特に交渉に直接、間接的に関与した日英政府外の組織や個人の動向にフォーカスし、The National ArchivesやLondon Metropolitan Archivesなどの複数のアーカイブズに所蔵されている1次文献(外交記録、組織の議事録、個人の手記など)をベースに取り組んでおります。

【修了後の進路】

コースメートの多くは各国の政府系機関や研究所に就職するか博士課程へ進学しますが、私は一般企業への就職を決めました。具体的には、(i) 幼少期から海外での生活が長いこと、(ii) ビジネスキャリアの初期において幅広いインダストリーのビジネスノウハウを得たいこと、(iii) 企業のトップマネジメントに早い段階から関与したいこと、などを背景に、外資系の戦略コンサルティングファームにて2018年10月より勤務いたします。帰国後も附設の同窓会のイベント等にも積極的に関与し、社会人の先輩の皆様より薫陶を受けることができれば幸いです。

**川口太郎** (61回生)大阪大学大学院
工学研究科機械工学専攻

大阪大学工学部より

こんにちは。附設高校61回生で大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻に所属している川口太郎と申します。近年、附設生で大阪大学、しかも工学部に進学した方はそんなに多くないと思いますので、大阪大学工学部での日常や研究を紹介と思います。今後の進路の参考になれば幸いです。

日常にて

大阪の大学なので周りは関西出身が多いです。流石は大阪、関西弁でしゃべりまくって絶妙な間の取り方で笑いを誘ってきます。彼らの話術は本当にすごいです。つつこみも鋭く、お笑いが身に染み付いてるんだと思います。もちろん関西圏外から来ている人も多く、彼らと話していると随所に地域の違いが出てきて大変おもしろいです。これは附設生同士だけでは体験しえないことだと思います。学部生活の4年間はあっという間に過ぎていきましたが、振り返ってみると、よく笑わされた4年間だと思います。これは大阪という場所も理由の一つだと思います。

研究について

現在、私は機械工学専攻の研究室に所属しています。機械と聞くとロボットなどを連想し、そちらの方面の研究を行っているのかと多くの方は思うかと思いますが。しかし私の研究は持続可能な開発を行うためのデザインおよびマネジメントを考えるというものです。具体的には自動車のシェアリングサービスは本当に環境面、経済面で優れているのかを研究しています。到底機械専攻で行う内容ではないと思われるでしょう。しかしこれもちゃんとした機械工学専攻の研究です。この研究は設計領域に分類されており、環境に優しい、効率的な製品設計およびシステム設計を考案することを目的としています。この目的を達成するためにはある一つの専門性を突き詰めるだけでなく、社会インフラの状況、物資の流れなど社会システムを把握する必要があります。何が言いたいのかというと、工学部では工学的知識だけでなく、それを用いて社会問題に取り組む際に必要な幅広い知見が必要となるということです。必要なデータや知識の収集は大変ですが、それらを駆使して自分だけの結果を得られることは研究の醍醐味だと思います。

附設同期との交流

しばしば附設同窓会関西支部が開催する同窓会が行われ、京都大学など関西圏の大学に在籍している同期と会います。会うたびに高校生活の思い出や近況などを話し、結構な盛り上がりを見せます。特に61回生の同窓会での集まりは良く、仲のいい代なんだと実感しています。

まとめると、大阪大学での生活は笑いの絶えないものであり、工学部では幅広い知見を得られると私は思っています。最後に、大阪大学や工学部に興味がある生徒の後押しや興味を引くきっかけになることを願いつつ寄稿を終えさせていただきます。

研究室の同期と卒業式にて



附設同期と轟先生



**古賀啓佑** (62回生)

横浜国立大学経済学部 4年生



大学生活について

こんにちは。 附設62回生 横浜国立大学経済学部4年生の古賀と申します。大学生活についての振り返りということですが、僕は中二の頃に附設の恥晒しという評価をいただいたような人間ですので、僕がこの原稿を依頼された意味を意識しながら話をさせていただきます。似たタイプの人に共感して頂けると嬉しいです。

大学生活について

大学ですが、僕はこの大学で得たものはひとつ、1人で頑張る経験です。今まで中高6年間寝食を共にした友人と離れ(寮生でした)、知り合いの全くいない環境で、新たな生活を迎えました。初めは横浜なのになんで山の上なんだよなんて思いながら、附設のノリってやつが恋しくてしようがありませんでした。しかしそんなことも言ってられず、テスト前だけはやたらコミュ力が爆上がりし、過去問収集に勤しみました。大学という場所は、卒業するために単位をとる 初めはそれだけの環境だったのです。けれども、うちの大学は似たような境遇の人間も多く、いい奴が多かったです。国立ということもあり、皆地味な方ですが、素朴で謙虚な奴ってだいたいいい奴ですよ。なので、親近感というか同じ仲間といったような感覚が芽生えていきました。一方で附設の仲間との縁が途切れたわけでもなく、頻繁に飲んだりしてます。〇代という62回生の問題児が僕の家に居候して四ヶ月が経ってしまいました。また、僕は浪人していたので附設の同期には1年早く就職する人も多かったです。僕の心は常に附設の仲間達の中にありましたが、大人になるにつれて会う機会は減っていきます。日頃はそれぞれがそれぞれの環境で頑張り、面白い経験を土産話に時々会う、そんな大学生活でした。若しかしたらこれが和して同ぜずってやつなのかも知れません。僕は未練で入った東大のバンドサークルを1年間続けて辞めた時、乳離れじゃないですけどやっと自分も自分の環境で頑張ろうと思えました。

何を頑張ったかというアルバイトです。塾講師を4年間続けました。

とりあえず始めてみたバイトでしたが、バイト仲間にも恵まれて良い経験でした。それは附設の仲間とはまた違った良さで、いろんな経験をしているいろんな場所から来た人達に会えました。元ホストとか。

東京での大学生活は刺激が多く、新しい経験、出会いに恵まれていたと思います。これからも附設の縁は大切にしながら、新しい環境に飛び込んで行こうと思います。ありがとうございました





岡田 怜子 (64回生)

大阪大学医学部医学科3回生

仲間とのフリーハグ実験



和歌山県の白浜海水浴場にて同期と。和歌山の海は穏やかで息を呑むほど綺麗です。



附設を旅立って ～大学での歩み

はじめまして。大阪大学医学部医学科3年、附設64回生の岡田怜子と申します。この度はこのような貴重な場を頂き、大変感謝致します。

月日の流れは早く、附設を旅立ち大阪大学に入学して2年半が経ちました。大阪駅に初めて降り立った時の駅の匂い。大学を目の前にした時の高揚感と決意、そして不安。今でも昨日のここのように覚えています。

大阪大学では、1年生から2年生の前半まで豊中の総合キャンパスで一般教養を学びます。そしてこれに並行して2年生から3年生にかけ基礎医学を学び、医学部生にとって最初の関門とも言われる人体解剖にも取り組みます。辛いこともありました。が無事に乗り越え、現在、私は基礎研究室配属に取り組んでいます。そして4年生からいよいよ臨床医学の授業が始まります。

大学では勉強はもちろんのこと、バドミントン部や国際医療研究会の活動にも打ち込んでいます。趣味や飲み会、遊びなども楽しんでます。学内外の良い仲間恵まれ、勉強に遊びに刺激を受ける日々です。

中でも私が今、力を入れて取り組んでいること。それは医療に笑いを届ける活動です。どんな場面でも笑いを織り交ぜる大阪人のエネルギーに包まれて、私は笑いの持つ力に惹きつけられました。「笑い」は精神的な効果はもちろんのこと、免疫力などの身体の健康にも良い影響を与えることが示唆されています。同じ想いを抱く仲間と出会い、また大学の公衆衛生学教室での学びもあり、私は患者さんや医療従事者に笑いを届ける活動を行なっています。ピエロの鼻の持つ力に可能性を感じ、フリーハグにも挑戦しました。この夏、クラウニング活動の第一人者であるパッチアダムス氏に実際に会いに行きます。思うような結果が出ない時もありますが、人々の温かさに励まされ毎度想いを強くしています。私は、この活動が私の目標の一つである「患者に寄り添える医師」への第一歩になると信じています。

また、この活動以外にも大阪大学からCampus Asiaの一員として韓国の延世大学に派遣され研究及び国際学会に参加をしました。学外では、かねてより宇宙に興味があったため、宇宙医学という分野の活動もしています。

このように私は多くの人に助けられながら充実した日々を送っています。様々なことを経験し、医師として、人間として成長させてもらっています。これも温かい先生方と友人に囲まれ、積み重ねてきたかけがえのない附設での土台があるからです。

附設時代を大切にしながら今を精一杯努力し、夢に向かって一步一步歩んでいきます。



東島 いずみ (65回生)

京都大学理学部理学科1回生

価値観を共有する附設の友達は 本当にかげがえのない存在

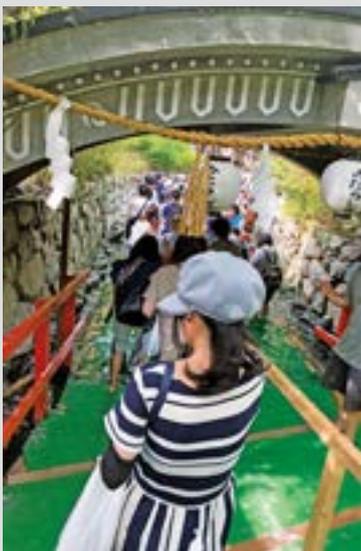
こんにちは。久留米大学附設高校65回生の東島いずみです。今回は兄の同級生であり、大学の先輩でもある62回生の吉村先輩からの依頼で寄稿させてもらっています。

さて、風のように過ぎた高校3年間と1年の浪人生活を終え、現在私は京都大学理学部理学科1回生として研鑽の日々です。ん？ 理学科？ と思われる方も多いかもしれません。京都大学理学部は「緩やかな専門化」を謳って、他大学でいう学科(例えば、数学、化学……など。京都大学理学部では系と呼ばれる)に分かれるのが3回生の時です。したがって、1、2回生の時は理系科目は特に指定もなく、好きなだけ好きな授業を取ることが許されています。人気の系は毎年違うようですが、去年は数学系、物理系が倍率1倍を超えていたそうです。今は特に専門的なことを学んでいるわけではないので、理学部に関して書けることはこれくらいです。

私の所属するサークル(?)、理学部社会交流室についてお話しします。社会交流室では週末、夏休みを利用して、近畿圏の小学校や科学館に理学の面白さを伝えるに行く活動を行っています。メンバーは理学部の学部1回生から理学研究科博士課程1回生まで様々な系の学生で構成されています。普段は週1回の定期研修を行っており、先輩方に課題の質問をしたりしています(たまに本来の趣旨に沿った活動もします)。定期研修後に京大周辺の飲食店で先輩方と系のことや、院試の話、くだらない話をするのがとても楽しいです。そして、小学校での科学教室に参加した時には磁石と銅線を使ったスピーカーづくりをしたのですが、電流によって磁場に変化が起きることを小学生に説明するのはなかなか難しく、また低学年の子に至っては電流を知らないので説明に苦労しました。これから夏休みに入って活動も増えていくので科学現象や小学生の学習についてさらに勉強していかなければなりません。

理学部を離れて私の現在の生活について話します。65回生との交流は現在も続いていて、京都大学だけでなく京都市内や大阪にもたくさんの友達がいます。休日と一緒に神社仏閣に行ってみたり、鴨川に入りながらアイスを食べたりと高校の延長のようなことをしています。6月30日に行われた関西地区同窓会の後は鴨川の土手で23時までしゃべっていました。実際に会わなくても、SNSで近況を伝えあったり、レポートについて質問したり、政治の話題について議論したりと高校の時と変わらない付き合いがあります。大学に入学してみても様々な価値観の人と出会うのもいいことですが、価値観を共有する附設の友達は本当にかげがえのない存在だといっそう感じました。

京都大学は毎日何かしらどんちゃんしていて附設生にはぴったりだと思います。後輩たちにもぜひ京都大学を進学先として選ぶ人が増えてくればいいなと思います。余談ですが、同窓会からだけでなく大学側からも話をさせてもらう機会をいくつかいただいている、女性研究者を目指す女子高生に向けた京都大学のメッセージ冊子『未来に繋がる青いリボンのエトセトラ』と、今年度の理学部のパンフレットに私のインタビューが載っています。ぜひ手に取ってみてください。ちゃっかり宣伝してしまいましたが、以上で寄稿を締めさせていただきます。





平松 昂 (65回生)

東京大学文科1類2年

大学生活——学業と農業の両立

【自己紹介】

初めまして。昨年卒業した65回生(中学43回生)の平松と申します。現在、東京大学文科1類の2年で、東京出身である僕にとっては6年ぶりに地元? に帰って来て約1年半、というところです。専攻についてはいろいろ悩んだ挙句、「知的好奇心の塊」らしく後期教養学部の相關社会科学コースに進学を志望しています。

【大学生活】

学業の方は、東大の第二外国語を集中的に学習できるプログラム「TLP(トライリンガル・プログラム)」で中国語を学んでいるほか、法・社会などの科目を集中的に履修しています。105分授業が週に15~16コマと常に何かに追われていますが、毎日得られる学びは大きく、非常に幸せです。比較的自由に履修が決められる2年の前半は、社会学や経済学、統計学などの基礎科目も履修し、日々視野が広がるような思いでいます。進学選択(昔の進学振り分け)についても、様々なことを学べる学部・学科という視点を優先しました。おかげさまで点数もあまり心配することなく進むことができそうです。

現在、農業と地域おこしをするサークル「東大むら塾」の副代表をやっています。3反の田んぼと少しの畑を自分たちで借りているほか、連携活動をしている千葉県富津市のとある地区の将来構想を地元の皆さんと立てる……などの地域おこしの活動も行なっています。大学に入って何か新しいことを始めたいな、とは思っていたものの、「まさか自分が農業を……」と時々振り返っては驚いています。実際にこのサークルで活動していると、日本の農業・農村をめぐる問題が浮き彫りになって来ます。後継者不足、補助金頼みの生業、鳥獣害の増加、耕作放棄地の増加など、多くの問題を抱えていることはみなさんご存知かと思いますが、特に専業農家や代々農業を営んで来た方々にとって農業はかけがえのないものであるがゆえに、大規模な改革も難しいのが現状です。附設に通った時期を含め都会に暮らして来た僕にとって、サークルでの経験は全てが新鮮であると同時に、非常に考えさせられるものでもあります。



【今後の進路】

正直まだ何も決めていないのが実情です。若いうちにそれなりの収入を得て、それで世界の様々な場所で自由にいろいろなことを学んでみたい、という知的好奇心こそありますが、職業については「とりあえず民間かな」程度のイメージです。もし機会があれば、先輩方からのアドバイスもいただきたいです。



白地 立 (65回生)

慶應義塾大学理工学部管理工学科
2年生

私の大学生活、現状報告です。

附設65回生の白地立と申します。現在、慶應義塾大学理工学部管理工学科の二年生をやっております。今回は、私の大学生活について、お話しさせていただきたいと思います。

まず学問について、私の進んでいる管理工学科とはどんなところか、という話ですが、実は私もよくわかっていません(笑)。一番文系に近い理工学部という言われ方をしますが、すごく幅広い学問になっています。授業では、金融、プログラミング、人的要因、その他あらゆることに関して学んでいきます。数学的・技術的であり、かつ人間的な、珍しい学問です。

私は、恥ずかしながら、まだ夢や、なりたいもの、というものが全くありません。そこで、なるべく沢山の可能性、選択肢を持っていたいという思いから、この学科を選びました。

いろいろなことを貪欲に吸収し、その過程であわよくば自分のなりたい将来像が見えてくればな、と思っているところです。

また、最近力を入れているのがドイツ語です。教授の単語の源流まで辿り、言語学的に説明してくださる授業が面白いです。週三回授業、うち二回でテストが行われる、(成績はよろしくないのですが)かなりハードな授業を履修しています。

次に、学問以外の私の生活について軽くご紹介します。附設時代軟式野球部に属しており、野球は趣味でもあり続けたく思い、野球サークルに入りました。週1くらいのペースで、自身の中年体型がキープされる程度にのんびりやっています。

そして、慶應大学理工学部の学園祭、矢上祭の実行委員会にも入りました。理工学部生200人規模の大きなサークルで、学園祭向けの仕事も多く充実しています。私は渉外局というところに属し、企業やお店に声をかけ、交渉し、学園祭に協賛をいただく役割をしています。スーツを着ての交渉事などが、学生生活の中でできるというのは貴重で、めったにできない経験です。コミュニケーションをあまり得意としていない自分にとっては試練が多く、多くの先輩のお世話になりながら活動しています。慶應大学の横の繋がり、そして縦の繋がりを感じるところです。

学園祭実行委員会の様子



附設の友達とは今でも時々会っています。やはり附設生にしかわからないことはあるようで、ホームタウンに帰った気分それぞれの生活を語り、愚痴り、宥め、ボケて、笑って、非常に楽な時間です。やはり高校の友は一生ものですね(笑)。

大学生活もまだまだこれから、いろいろなことをやり、見聞を広め、多くの人間と出会いながら、自分らしい道を見つけていきたいです。

附設合格状況

附設高等学校進路指導部長 **城戸 清**

◆国公立合格数、現役生は過去最高

平成30年度は、国公立大学に現役生が117名（防衛医科大学校3名、防衛大学校4名、自治医科大学1名、産業医科大学2名を含む）、浪人生70名（防衛医科大学校4名、防衛大学校2名、自治医科大学1名、産業医科大学4名を含む）が合格しました。合計187名は、昨年の193名から6名減です。防衛医科などを除くと、現役生は107名で、これは過去最高でした。これが三桁だったのは過去5回で、最近では9年前102、過去最高は31年前の104でした。

東京大学が現役生18名、浪人生5名で合計23名、九州大学が現役生28名、浪人生13名で合計41名、京都大学が現役生11名、浪人生2名で合計13名、大阪大学が現役生8名、浪人生3名で合計11名、東京工業大学が現役生6名、浪人生2名で合計8名、長崎大学が現役生4名、浪人生4名で合計8名などが主なものです。

東京大学は、二桁合格者が始まって以来、二番目に少ない数字でした。志願者は昨年並でしたが、現浪、文理とも「合格間違いなし」という者が少なく、厳しい結果を覚悟していましたが、昨年より4名減でした。現役合格者のうち、京都、大阪、東京工の合計が25名と例年の倍以上で、特に京都の現役合格二桁は、平成11年度以来、約20年ぶり。これが、東京大学の合格者が少なかった理由です。

◆今春の医学部医学科に多数合格

国公立大学の医学部医学科が現役生36名、浪人生29名で合計65名（産業医科大学6名、自治医科大学2名を含む）、過去最高の昨年より18名減で一昨年と同数でした。現役生1名減の一方で、浪人生17名と大幅減です。九州大学20名、長崎大学7名、熊本大学6名、山口大学3名、広島大学2名、また、徳島、佐賀、大分、宮崎、鹿児島各大学に1名ずつと、九州と中国四国で43名です。東京大学1名、千葉大学1名、大阪大学3名、京都府立医科大学3名と関東や関西にも合格していますが、厳しい。国公立を日程別に見ると、前期・推薦が50名で昨年より19名減、後期が7名で3名減でした。

◆希望が多い医学部医学科

本校の卒業生は約200名で、最近では四分の一の約50名が文系、残り約150名が理系、その半数が医学部医学科志望というのが例年の傾向ですが、今年、国公立前期に出願した現役生は60名弱で、昨年より15名減でした。しかし、男子の合格率が高く、現役女子も医学部志望のちょうど5割の7名が進学です（私立1含む）。高いレベルの理数勝負となる九州大学では、現役女子合格者は二年連続0と厳しい結果です。

将来にわたって学ぶ向学心を持っていて、労を厭わず他人の役に立つ仕事をしたいとの希望に加え、保護者に医療関係者が多いことから、医学部希望が多いのは自然なことです。過去10年分の国公立医学部（産業医自治医を除く）の合格数は、現役生298名、浪人生302名と平均30人ずつ「医学部定員増」のため、現役合格率が上がっています。可能な限り現役で進学できるよう、手助けをしようと努力します。

◆校内模試が進路指導の要

本校の進路指導の要に校内模試があります。高校2年生までは、日々の学びのまとめを、年間5回の定期テストで確認していきますが、高校3年生と希望する浪人生は、年4回の校内模試を受けます。個別の大学入試に対応した記述形式の模擬試験で、平均点は約4割弱、4回平均で5割を超えれば、東京大学、京都大学、九州大学医学部などの難関大学に高い確率で合格できます。

問題作成と採点には、本校の中学、高校入試と同様、ほとんどすべての教員が参加し、成績検討会もします。高校三年生を直接教えていなくても、問題の作成と採点を通じて指導しています。また将来の高校三年生になったときに実力がついていように、高校二年以下の生徒の学習指導に活かしていくことができます。

◆今年も全力で取り組む覚悟です

この春の結果は、現浪合わせた国公立大学に174名（産業医と自治医を含み大学校は含まず）合格で、ここ6年では一昨年に次ぎ多数でした。今年の現役生も高校二年生まで特に英語の実力は心配でした。しかし、担任の先生方の生徒を信頼して自主性に任せる指導、生徒たちもその信頼に応えて、素直にかつ真剣に授業や特講に取り組んだ結果、英語を含む全科目で実力をつけ、センター試験で好成绩をあげ、過去最高の国公立合格数につながりました。

本校では生徒一人ひとりが妥協せずに志望を実現することを大切にしています。厳しかった東京大学、難関の医学部医学科などを教訓にしつつ、合格できる大学ではなく、志高く進学したい大学を目指し、授業と特講で真剣に学び、校内模試で現浪が切磋琢磨して実力をつけてほしいと願い、全力で指導に取り組む覚悟です。

表Ⅰ 国公立大学合格者数 (単位:人)

平成29年度		平成30年度	
東京	27	東京	23
九州	48	九州	41
長崎	18	京都	13
山口	9	大阪	11
熊本	8	東京工業	8
京都	7	長崎	8
東京工業	5	熊本	7
佐賀	5	北海道	6
北海道	4	横浜国立	4
その他	63	その他	66
合計	194	合計	187

国公立大学の「その他」は、大学校、自治医科、産業医科を含む

表Ⅱ 私立大学合格者数 (単位:人)

平成29年度		平成30年度	
慶應義塾	28	慶應義塾	19
中央	20	東京理科	19
東京理科	19	中央	18
早稲田	17	早稲田	16
久留米	16	久留米	15
明治	14	近畿	13
福岡	12	福岡	10
立命館	4	立命館	9
関西	3	明治	8
その他	41	その他	53
合計	174	合計	180

私立大学の「その他」は、自治医科、産業医科を含まない

表Ⅲ 医学部医学科合格者数 (単位:人)

平成29年度		平成30年度	
九州	28	九州	20
長崎	13	長崎	7
山口	8	熊本	6
熊本	7	大阪	3
佐賀	5	山口	3
広島	3	京都府立医科	3
東京	2	山梨	2
筑波	1	広島	2
千葉	1	東京	1
岡山	1	佐賀	1
その他	14	その他	17
国公立計	83	国公立計	65
久留米	16	久留米	15
慶應義塾	4	福岡	8
福岡	3	慶應義塾	1
その他	22	その他	23
私立計	45	私立計	47
防衛医科	14	防衛医科	7
合計	142	合計	119

国公立大学の「その他」は、自治医科、産業医科を含む

**松本卓也** (67回生)

生徒会長

最初の『イチャイチャ』世代

高校67回生で生徒会長を務めさせていただいた松本卓也です。この度、在校生代表としての同窓会報への寄稿ということで、附設中・高の過渡期中で、完全共学初年度である我々の学年、中学45回生・高校67回生について書かせて頂きます。読みづらい文章ですが、ご自身の学生時代を懐かしみながら気楽に読んでいただければ幸いです。

私は、中学から附設に入学したため、中学最後の男子校を見ることができました。中でも1つ上の高校66回生は男気あふれる学年で、先代の吉川校長先生には「山賊」と言わしめるほどの活気があり、我々後輩は多くのエネルギーをいただきました。そんな男子校時代が終わってしまったのは少し残念な気持ちがしています。

一方で、共学化に伴い、附設で始まった新たな伝説や慣習もあります。例えば、図書館では、一緒に勉強をした男女は永遠に結ばれるといった伝説があったりします。おかげで、朝も帰りも図書館はカップルでいっぱいです。これは今までになかった光景ではないでしょうか。また、高校棟の中庭は、最高の告白スポットになっています。ここでの告白は高校棟からよく見えるため、成功すれば皆が祝い、失敗すれば皆がなぐさめる、そんな温かい告白スポットです。今年の文化祭では、この中庭での告白をメインにした映画も上映されました。共学化に伴って、このような点ではすごく活気に満ちていると思います。(私は花を咲かせることができませんでしたが……。)

また、体育祭や文化祭、部活動なども大きな変化がありました。体育祭での女子競技の新設や女子バスケットボール部、バトミントン同好会の設立など多くの変化があり、生徒会の運営としては少し大変だった気もします。しかしながら、社会が男女平等となった時代の中で、附設にも男女の多様性が取り入れられたことは非常に喜ばしいことで、附設のますますの発展につながることを期待しています。

このように、新しい附設が始まるこの学年で5年間以上、男子校時代の風と共学化の風を肌で感じる事が出来たのはすごくいい経験になりましたし、とても充実した学校生活であったなと思います。後輩達が先輩方の築き上げた伝統を守りながらも新たな附設へと歩みを進めていってくれるものと期待しています。



松崎 広太 (67回生)
文化委員長



男く祭2018 一 新 附 嵐

初めまして。第48回男く祭実行委員長を務めさせていただいた松崎広太です。私たち高校67回生の内部生である中学45回生は、男女共学初年度の学年ということで、今回の文化祭は完全共学校となり初開催のものでした。ここでは、その文化祭の模様を少し紹介させていただきます。

何よりもまず触れなければいけないのは、「男く祭」という通称についてです。力強く絶妙なこの通称は、第5回文化祭から使用されており、多くの先輩方の心に刻まれてきたことと思います。しかし今の附設は共学校。事情を知らない人から見れば違和感を覚えるのは当然で、議論すべき事項でした。様々な所から様々な意見が降ってくる度に、私たち文化委員の意見も二転三転し、生徒に諮って結論を出すまでにかかった時間はちょうど半年。出た結論は既にも書いている通り、「今回、新たな通称をつけることはしない」でした。その根拠は、今回の文化祭に関わった3学年に2回、形を変えて行った通称の意識調査において「変えなくてよい」が多数だったことです。この結果になったのは、私たちは既に「男く祭」の男くさくない面を見続けており、「男く祭」が「男くさい」という意味を包含しているという感覚をあまり持っていなかったからでしょう。

その後、男く祭という通称の決定に関わられた先輩にもお話を伺い、私自身もある結論に達しました。それは私たちが男く祭と連呼するのは全く構わないが、支障がない限り、外部向けの情報媒体には「文化祭」または「Otokokusai」と表記しようということでした。私たちの多くが「男」に特別な意味を感じていなくても、外から見るとそうはいきません。内と外の両方のバランスをとったつもりでしたが、これからまた様々な議論がなされていくだろうと思います。

通称問題が落ち着いた後、11月ごろに「一新附嵐」というテーマが決定しました。男女共学が完成し、一新した附設に嵐を巻き起こすために掲げられたこのテーマの下、一心不乱に作業に打ち込みました。

1日目は、女子のみが出演する「ふせつこまち」という中央ステージ企画を初めとし、新たな校内企画・装飾はもちろん、福岡市博物館とのコラボ企画に進化したプラネタリウムなど初企画が満載。昨年公表だったグッズの品数も増量し、新設されたPも抜群に機能しました。

2日目は先輩方の助言を基にタイムテーブルが組み換えられました。オープニングからエンディングまでの一連の演目を、共学を主題とした演劇が繋げることで一続きの舞台としての「流れ」が完成しました。講演にはレズビアンタレントの牧村朝子さんをお呼びするなど、新たな文化祭像が出来上がりました。

中央ステージのオープニングから閉会式の「一新附嵐 (左写真です)」、後夜祭まで、あっという間の2日間でした。

実は今回の文化祭には例年より10日ほど早い、また1日目が土曜日の開催であるというもう1つの大きな変更点がありました。未知のスケジュールでの運営ということで、各部署は死にそうになりながら仕事に励んでいました。その大きな困難を乗り越えて、67回生を中心とした熱い思いが来場者のみなさんに伝わっていく光景には感動しきりでした。歴史が積み上がっていくその瞬間を目の当たりにできたことは人生における貴重な財産です。

また来年、違うところも変わらないところもある「男く祭」を、是非ご覧下さい。

全国高校対抗 新橋有薫コンペ

第14回 2018年2月25日(日) 附設チーム惜敗!

ディフェンディングチャンピオンとして臨んだ有薫コンペが去る2月25日に終了し、今回は残念ながら梅檀Aチームが3位、梅檀Bチームが5位となりました。優勝は新橋有薫の松永女将の母校である岩国高校が初の栄冠となりました。個人部門ではミスター附設の古原先輩(25回生)がベスグロ(39/38/77)連覇となりました。個人順位は大熊先輩(25回生)の10位が最高位で中村先輩(27回生)が11位、古原先輩が12位、森山さん(35回生)が22位、高尾野(35回生)が36位、上野先輩(29回生)が40位、日高先輩(29回生)が83位でした。(31チーム121人中)

前回大会では附設が全ての部門を総ナメしたため、懇親会の最初に挨拶された古原先輩スピーチで



は、軽いアウェーな感じの雰囲気でしたが、そんな雰囲気にも附設は負けず、宿敵修猷館にも完勝し、立派な成績だったと思います。女優の高橋由美子さんがプレゼンターとして来場されており(新橋有薫の常連さんらしいです)、会を大いに盛り上げて頂きました。(因みに高尾野は107も叩きましたが36位でした^^;)

※上野先輩と日高先輩におかれましてはハンデが全くついておらず、名誉のため付記します。
※大熊先輩、前半4パーティでぶっちぎりでしたが…次回は飲み過ぎないようにお願いします笑。

第15回 2018年7月16日(祝) やっしまいました…!!! まさかの梅檀Aチームが 梅檀Bチームに敗北!

前回、団体成績が3位&5位という不本意な成績だったため、名門復活を期して復活優勝を狙いました有薫コンペが灼熱の成田で7月16日に終了しました。

結果は……やっしまいました~~~~~!

まさかの絶対エースの梅檀Aチーム(11位)が梅檀Bチーム(10位)に負けてしまいました!!

反省の梅檀Aチームの懺悔フォトを添付しておりますので、どうかお許し下さい(笑)。

灼熱の中で母校の名誉のために奮闘し、無事完走できたことだけでも評価して頂けると幸いです。

次回は皆様が雪辱に燃えています! 今回不参加の皆様も是非力を貸してください。



梅檀Aチーム：古原先輩25回生・日高先輩29回生
榎原先輩29回生・森山さん35回生
梅檀Bチーム：諸岡先輩27回生・佐藤先輩32回生
田中先輩34回生・高尾野35回生

※とうとう古原先輩(25回生)のベスグロ連覇記録が途絶えてしまいました。
※今回27回生の諸岡先輩が初参加してもらいました。次回も是非とも参加をお願いいたします。
※34回生の田中先輩がニアピン2個とドラゴン1個を獲得されました! 唯一の成績のトピックでした。
※その他の個人の成績開示は個人の名誉のためにもどうか勘弁して下さい(笑)

次回は2月24日(日)@グリッサンドゴルフクラブでの開催になります。新ペリアなので奮って皆さまのご参加をお待ちしております。今回不参加の皆様には是非スケジュール表に記載してください!

開催日：2019年2月24日(日)
開催場所：グリッサンドゴルフクラブ(0476-22-5555)
〒286-0101千葉県成田市十倉三三
幹事：高尾野(35回生)

第23回

附設就職セミナー

Phase 1 2018年12月9日 日曜 13:30～

Phase 2 2019年2月2日 土曜 13:30～

コンテンツが異なる為、両日程の参加をお勧めします。

Originality

附設OBがあつい想いを
持って創り上げる
オリジナルで“附設らしい”
就職セミナーです。

Evolutionary

附設同窓会という伝統を
活かし、過去の参加者から
の要望を踏まえ進化
してきました。

Community

官公庁・商社・金融・メーカー
IT・マスコミ・広告・流通
幅広い業界の先輩と出会う
チャンスです。懇親会も
予定しています。

Family

附設ファミリーとして、
附設卒業生ではない
お子さんの参加も
大歓迎です。

会場 **学士会館**

東京都千代田区神田錦町3-28

東京支部総会の成功をお祈りしております！



2018年2月24日の就職セミナー

51回生 **大津良太** (新人歓迎会・就職セミナー担当)

●同窓会室の紹介●

1号館1階に整備、拡充された、同窓会室・後援会室

新校舎建替工事に伴い、1号館1階の旧事務室の後に、同窓会室と後援会室が一室に一体的に整備、拡充されました。同窓会と後援会のより一層の連携、協力により、卒業生と在校生とのさらなる交流が広がることを願っています。同窓生OBが在校生に色々とおアドバイスできる場にもなるでしょう。母校に来られた折には、是非お立ち寄り下さい。



同窓会から毎年卒業生に贈られている卒業記念品のペーパーウエイト▶



同窓会からのお知らせ

同窓会に対する各種問い合わせは下記のいずれかでお願いします。

【電話】0942-44-2222 【FAX】0942-44-8257 【メール】<http://www.fusetsu.gr.jp/contact>

【同窓会ホームページ】<http://fusetsu.sakura.ne.jp/> 【WEB名簿】<http://pu.palsyne.net/s-fusetsu/>

【同期の回生代表世話人】P.40ご参照 回生代表世話人のメアドは同窓会にお問い合わせ下さい。

※住所変更などの連絡はメールのほか、電話やFAXでも受け付けております。

(本文P.42ご参照)

※ご同期などの物故者に関する情報をお持ちの方は同窓会までご連絡下さい。

◆編集後記

川嶋前同窓会会長の訃報に接し、言葉になりません。川嶋さんの挨拶文を掲載できないということは誠に残念です。川嶋前会長の遺志を引継ぎ、その実現に向けて努力することこそ残された我々の使命だと思えます。

8月発行に変わった同窓会報もこれで5回目を迎えました。皆さまのご協力により、年々内容も充実し、今年は148頁の同窓会報が出来上がりました。今年も内容の充実とコストのバランスを考えた同窓会報作りに注力しました。原稿についても残念ながら頁数の関係から掲載できなくなった方々にはお詫び申し上げます。同窓会報の末尾に掲載させて頂いております広告につきましては、福岡・東京の両総会幹事学年(29回生、35回生)の皆さんの頑張りで、沢山の広告を掲載することができました。広告掲載にご協力頂きました皆様、幹事回生の皆様、印刷等にご協力頂いたハシモト事務機様(橋本和幸社長、20回生)、糸川印刷様(高尾野健社長、35回生)に厚く御礼申し上げます。卒業生の同窓会員はもちろん、母校の先生方、同窓会員である高校在校生ならびにその保護者の皆様にもご理解を深めていただきたく、内容の更なる充実を努めて参りたいと思っておりますので、今後ともご協力ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。最後になりますが、本同窓会報にご寄稿いただきました皆様に改めて厚く御礼申し上げます。



広報委員長
中村和徳(27回生)

久留米大学附設高等学校同窓会

広報委員会：古澤生敏(15)・小田恵介(19)・高橋友作(19)・橋本和幸(20)・安部政信(20)・中村尚昭(22)

広告募集委員会：吉本幸治(28)・田中利美(20)・中村和徳(27)・実藤光二郎(26)・田中健一郎(29)・高尾野健(35)

協力：轟 寿男先生・阿部健太郎先生・牛嶋啓二(26)・中村昌子(事務局)

寄稿いただいた原稿は、原則、本年6月末日現在で頂戴しております。
表現や内容について齟齬が生じている部分もありますがご容赦下さい。